



研究シーズ集

SEEDS FOR RESEARCH & INNOVATION

地域リサーチ&イノベーションセンター
R I C (Research & Innovation Center)



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism

2021年度研究シーズ集発刊に際して



地域リサーチ&イノベーションセンター
センター長 川目 俊哉 ※

2021年春兵庫県北部但馬地域に開学した芸術文化観光専門職大学では、地域の成長に貢献する拠点として地域リサーチ&イノベーションセンター(略称:RIC「リック」)を設立しました。地域と大学の結び目として、公立大学としての地域貢献機能の推進、専門職大学としての実践性を教育、研究に取り込む機能を担います。地域と大学が点と点で結ばれるのではなく、地域と「地続き」の関係性をつくる上で、本学の心臓部となります。

このセンターを地域の皆さまにもよりご活用いただくために、本学教員の研究分野をまとめた「研究シーズ集」を編纂し、ここにご紹介させていただきます。

教員の研究分野は、大きく芸術文化、観光、経営並びに語学、情報等にわたります。それぞれの単独分野での活動とともに、各々の領域を「越境する」チームのプロジェクトを組織化することで、これまでにない視点からの価値創造ができることも本学ならではの地域連携のあり方となります。

地域の元気をつくるための企画段階から調査分析、課題解決策の策定そして実装まで広範囲に、地域の各種法人、NPO、教育機関、行政機関等と取り組みを進める所存です。地域こそが元気な、そしてその元気な地域のネットワークとしての「顔の見えるグローバル社会」が実現するよう一步一步取り組んでまいります。

※掲載写真 2021年5月17日日本海新聞トークサロン “大学と地域の橋渡し、掲載より引用



観光

中尾 清	3頁
桑原 浩	4頁
大社 充	5頁
小熊 英国	6頁
西崎 伸子	7頁
直井 岳人	8頁
高橋 伸佳	9頁
野津 直樹	10頁
高橋 加織	11頁
中村 敏	12頁

01

教授 NAKAO KIYOSHI
中尾 清 k-nakao0418@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 観光学 総合政策科学 観光政策・行政 温泉論
観光まちづくりの実践・支援 温泉観光地域の活性化支援

■ 研究の概要

(1) 観光基本計画などは、大阪府岸和田市、和歌山県岩出市で経験あり、また、「総合基本計画」審議会委員として、大阪府泉南市、阪南市、田尻町で計画作りに参画した。さらに神戸市職員時代、垂水区区別計画の総括をした経験がある。

(2) 大阪観光大学の教員として、大阪府南泉州地域（岸和田市以南5市3町）をフィールドとして社会貢献の実践をしてきた。その前職の神戸市職員では、経済・開発畑を歩き、主として観光やまちづくり推進、勤労者の生涯学習などの経験がある。

(3) 「声がかかればどこでも行く」を信条にしていたので、授業に支障のない限り、「相談」「打ち合わせ」「講演」など「どこへでも行く」を実践してきた。

■ 研究事例

事例1 地域の観光まちづくりの実践や支援

大阪観光大学では、教育研究の傍ら、地域貢献として地域の観光まちづくりを支援するとともに『観光講座』も要請があれば積極的に行った。

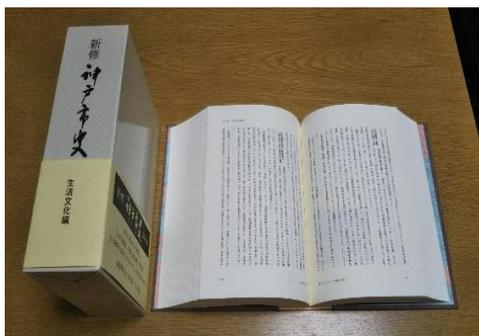
得意分野・・・「観光学概論」「ボランティアガイドとホスピタリティ入門」「温泉概説」などである。

事例2 近現代の有馬温泉における温泉観光まちづくりの系譜

研究の経緯

有馬温泉は神戸市観光係長で職務として関わってから地元と関係が深まり、その後大阪観光大学に転じてからも研究のフィールドとしてきた。

平成29年初めに神戸市の依頼を受け、平成29～令和元年度の3か年かけて、研究しその成果をまとめた。



研究の成果

分担執筆『新修神戸市史・生活文化編』
(第2章「地域と生活」第3節「有馬温泉の発展と課題」
140～198頁、令和2年3月発行)

■ アピールポイント

「元職」神戸市職員、大阪観光大学教授（現在、名誉教授）

「現在、就任している主な公職」

泉南市都市計画審議会会長（～令和3年10月まで）

泉佐野市特別顧問（観光行政・政策、～令和4年3月まで）

「過去、就任した主な公職」

大阪府民の森等指定管理者評価委員会委員長、大阪府和泉市観光推進委員会副会長

岸和田市観光振興計画策定検討委員会委員長、同公共事業評価委員会委員長

泉佐野市犬税検討委員会委員長、泉南市総合計画審議会会長、阪南市・田尻町総合計画審議会委員

新修神戸市史「生活文化編」執筆委員など多数

KUWAHARA HIROSHI
 教授 桑原 浩



■ キーワード

DMOによる観光マーケティング、途上国辺境地域における観光マネジメント
 DMOによるインバウンド観光振興のためのマーケティング計画策定、観光ルート
 の開発、食観光

■ 研究の概要

1. DMOによる観光マーケティング

(1) DMOによるインバウンド観光振興のためのマーケティング計画策定の支援
 特に、観光ルートの開発や食観光に関する課題

01

■ 研究事例

事例1 観光地飲食店体験の特徴研究

各観光地の飲食店業界が持つ特徴を観光客の視点から見つけ出し、マーケティング戦略に反映させる手法を研究しています。以下はその一部です。

飲食店体験の基本属性	調査項目のプロトタイプ (適宜、各地の具体的な名称などを用いて編集する)
地域特有の食材	その土地ならではの食材（飲料を含む）を食べた
旬の食材	その季節の食材が料理に使われていた
地域特有の調理法	その土地ならではの調理方法がされた料理を食べた
伝統的な料理	その土地の伝統的な料理を食べた
革新的な料理	斬新な料理を食べた
地域特有の食べ方	その土地の独特な食べ方を体験した
伝統的な外観	店の外観が伝統的なデザインだった
伝統的な店内	店内が伝統的な雰囲気だった 物理的環境
伝統的な立地	店の場所は伝統的な街並みの中だった
伝統的な食器	その土地の食器が使われていた
地元民の存在	地元客が多い店だった
地元民の評判	地元の人が勧めた店だった

事例2 観光アトラクションとしてのルート開発研究

観光ルートそのものを観光客集客のアトラクションにする手法を研究しています。以下は、そのための試論的ガイドラインの一部です。

観光ルート開発の成功要因	各要因において検討すべき諸条件
統一的テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ■ テーマを支持する歴史的、文化的、自然的基盤 ■ ルート開発前でのテーマへの認知度 ■ ルート開発前でのテーマへの好意度 ■ テーマの固有性や独自性
ルート製品化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 並立的観光アトラクションによる比較体系化 ■ コア・アトラクションと周辺アトラクションの体系化 ■ その他の手法によるアトラクションの体系化（たとえば、ルートイベントの開催）
インフラストラクチャー整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ ゲートウェイの充実 <ul style="list-style-type: none"> □ 空港、駅、港、外部との交通網 □ インタープリテーション・センター □ 宿泊施設 □ 飲食店 □ レンタカー会社 □ 各種売店 ■ 観光ルート内の整備 <ul style="list-style-type: none"> □ 美しい景観を体験できる道路、水路 □ ルート案内表示 □ 休憩施設、飲食店 □ 宿泊施設 □ 各種売店
ステークホルダーの参加と協力	<ul style="list-style-type: none"> ■ ステークホルダー間の協議組織 ■ リーダーシップ ■ 地元住民コミュニティの参加と協力
プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 明確なターゲット設定 ■ 広報宣伝活動 <ul style="list-style-type: none"> □ ホームページ □ ニュースレター □ イベント ■ 配布物 <ul style="list-style-type: none"> □ ルートマップ □ インタープリテーション情報
観光資源の保護	<ul style="list-style-type: none"> ■ アトラクション共通の資源保護基準 ■ 観光資源モニタリング制度

■ アピールポイント

日経リサーチ社とタイ国政府観光庁での実務、JICAでの実務者研修教育、大学での学術研究を通じて、DMOの国際観光に関わるマーケティングとマネジメントの課題に取り組んだ経験あり。

OKOSO MITSURU

教授 大社 充



- キーワード 観光地の経営（デスティネーションマネジメント）
観光マーケティング、DMO形成支援、地域活性化事業・計画策定支援

■研究の概要 DMO研究、デスティネーションマネジメント研究の先駆、第一人者

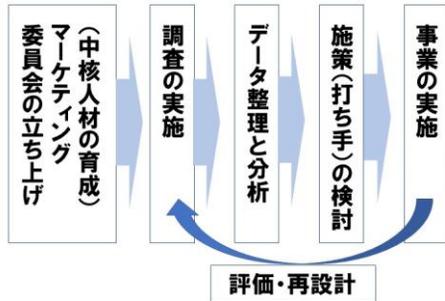
【主要な著書・研究報告書】

- ・著書『人生を一瞬で変える旅に出よう』山と溪谷社（2007）
- ・著書『体験交流型ツーリズムの手法－地域資源を活かす着地型観光－』学芸出版（2008）
- ・著書『東日本大震災・原発事故 復興まちづくりに向けて』学芸出版社（2011年）
- ・著書『地域プラットフォームによる観光まちづくり－マーケティングの導入と推進体制のマネジメント－』学芸出版社（2013）（第36回交通図書賞奨励賞）
- ・著書『DMO入門 官民連携のイノベーション』事業構想大学院大学出版部（2018）（第13回観光研究学会・観光著作賞）

【地域の取り組み】観光事業（DMC）運営人材研修を全国80地域以上で実施、各地での講演多数。「観光地マーケティングの導入」「DMO形成・確立」の支援に全国20地域以上で従事。いまは「持続可能な観光地域づくり」に向けた定量的な数値の可視化に取り組んでいる。

■研究事例

◆事例1 観光地マーケティングの導入支援

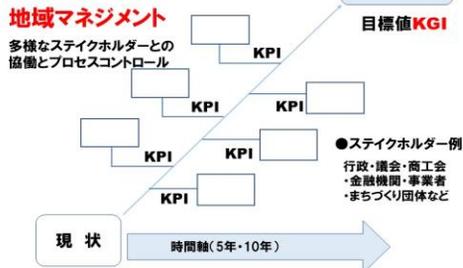


◆事例2 DMO形成・確立支援

わが国のDMOはほぼ官主導型

- 民主導型DMOの構造を明確化【官民連携の新たな仕組み構築】
- 課題(財源・組織・人材)の整理
- 条例案の作成
- 事業者・市民・議会への説明・合意

◆事例3 観光地マネジメントの支援



●専門領域（観光地域の経営）

地域の住民・事業者が主体となってデータにもとづく地域の評価・分析および施策立案の体制を整えること

■アピールポイント■

- 2009-2010国土交通省「成長戦略会議」（観光分野／都市分野担当）
 - 2010 内閣府行政刷新会議規制制度改革「農林・地域活性化WG」
 - 2013 経済産業省「産業構造審議会」委員
 - 2014-2019内閣官房「まち・ひと・しごと創生会議」委員
 - 2020- 総務省「ふるさとづくり懇談会」委員
- ほか

OGUMA HIDEKUNI
教授 小熊 英国



■ キーワード サービスマネジメント 観光学 有人宇宙学

■ 研究の概要

1. サービスマネジメント
観光を中心としたサービス業（飲食、宿泊等々）をハーバード経営大学院の研究で有名なSPCモデルや、顧客満足マーケティング等の手法を活用し事業開発・支援
2. 観光学
大手航空会社の海外拠点でジェネラルマネジャーとして従事、世界100ヶ国以上の渡航経験を活かし、外国人の日本誘致、インバウンドを研究
3. 有人宇宙学
宇宙における観光と旅行について京都大学大学院にて研究

01

■ 研究事例

事例1 講演

第6回江東区観光協会セミナー 開催のお知らせ

テーマ
空の観光のプロフェッショナルの視点での世界と日本の観光事情

これまで世界100ヶ国以上へ渡航し、
パイロットやCAの世界から海外ツアー企画の裏面や世界と日本の観光事情も語ります。
「観光立国から観光先進国へ」

日時: 平成31年2月15日(金)18:30~20:00
会場: 江東区産業会館 第1・2会議室
(東区本町4丁目5番4号4階出口すぐ)

参加費: 無料

講師紹介
クロービス経営大学院教授
小熊 英国氏 Ph.D. (学術博士)

事例2 コロナ渦のサービス業 セミナー

Night Session

コロナで変わるサービス産業
~サービス産業の未来を議論する~

小熊 英国

2020あさって会議NS_小熊英国様

事例3 サービス業のコンサル（社員による課題抽出）



事例4 宇宙に関するフォーラム調査発表

How to get water on the moon?

- ICE exists underground.
- water on the moon surface

NWA 2727と呼ばれる月隕石から「モガナイト」と呼ばれる水が関与してできる鉱物を見い

沈殿反応 ($\text{SiO}_2(\text{s}) + 2\text{H}_2\text{O} \leftrightarrow \text{H}_4\text{SiO}_4(\text{aq})$) には水が不可欠

NASAの探査機LADEE
2013年4月15日付の学術誌 (Nature Geoscience)
月の南半球にあるクラヴィウス・クレーターを観測した結果、6.1μmの水分子に特有の波長を抽出、1m²の土の中に、100~412ppmの水分子が閉じ込められている

平成30年5月1日 (木) 中国科学 (Science Advances)
https://www.sciencedata.jp/news/20180507-0487.html

論文誌 (Nature Astronomy) の10月26日発行

事例5 インバウンドツーリズム 海外現地調査



■ アピールポイント

経営、観光、サービスホスピタリティの分野において、大企業をはじめ多くの企業、地方自治体等で講演、講義、コンサルティングに携わってきました。企業のアドバイザーボード、学会理事多数兼任。

NISHIZAKI NOBUKO

教授 西崎 伸子

- キーワード 東アフリカ、エチオピア、野生動物保全、民族文化観光、再生可能エネルギー開発、自然資源の持続的利用、住民参加
学問分野：地域研究、生態人類学、環境学

■ 研究の概要

(1) 東アフリカにおいて、以下の4点について調査研究をすすめています。いずれも、経済発展を最優先する外部者による**大規模開発がもたらす負の側面**を明らかにしながら、**その地域の人々たちが地域固有の発展を追求するアリーナ（領域）をどのように広げられるか**、を課題としています。日本の地域社会に共通する課題だと思っており取り組んでいます。

- ・人と野生動物の共存に関する地域研究
- ・野生動物観光や民族文化観光に関する人類学的研究
- ・再生エネルギー開発をめぐる社会的合意形成と土地利用再編の解明に関する地域研究
- ・国際環境NGOに関する地域研究

(2) 東日本大震災および原発災害による地域社会への社会的影響に関する研究と支援活動

■ 研究事例

・わたしが調査をしているアフリカの人々の観光は、**民族文化観光**（エスニックツーリズムやカルチュラルツーリズム）といわれています。

・いわゆる観光業（宿泊業や旅行業等）を主たる仕事にしている人は、地域社会内ではごく僅かで、**みな複数の生業**で暮らしを成り立たせています。

・アフリカの人々の観光業へのとりくみは、ときとして「いいかげん」で「お金ばかり要求する」と批判されることもありますが、そこには**彼/彼女らなりの「合理性」**があります。

・研究者の役割は、その合理性を解き明かし、**未来の地域社会を地域の人々とともに考えること**だと思ひ、研究を進めています。



人々と飲食を共にしながらの調査スタイル
(2015年エチオピア西南部にて)

■ アピールポイント

調査研究は、学問の発展のためだけでなく、「社会から得たものは社会に還元していく」ことを目指しています。以下は社会還元の一例です。さまざまな活動を地域の方々と一緒に計画し、実行していきたいと思ひます。

- ・エチオピアの自然保護区の管理に関する政策提言（2000年～現在に至る）
- ・アフリカの民族文化観光についての観光業者との協働（ワークショップなど）（2011年～現在に至る）
- ・東日本大震災以降の子ども・女性支援と講演活動（2011年～現在に至る）
- ・福島県の環境関連の審議会委員（福島県環境影響評価審査委員会委員（2011- 2015）など）

NAOI TAKETO
 教授 直井 岳人



■ キーワード 観光研究（観光者心理）

観光資源発掘（キャプション評価法）、観光者の環境配慮行動の促進、
 観光者の入店したくなる店舗印象研究他、混雑感の緩和、
 自然災害に関わる風評被害の緩和

■ 研究の概要

観光資源の発掘

観光者、事業者などに、魅力的だと思うもの、空間の写真を撮ってもらい、撮影理由を所定の質問に
 応じて答える（キャプション評価法）

・観光者の環境配慮行動（ごみを正しく捨てるなど）を促進するためのしかけ
 人は、人のため（利他）、長期的な目的のためだけでは環境配慮をしにくいと言われ、観光者は特に
 その傾向が強いことをうかがわせる研究結果がある。

観光ならではの楽しみ（解放感など）を犠牲にせず、報酬や罰をできるだけ用いない、自発的な環
 境配慮行動の促進を促すための情報提供を考える

・入店したくなる店舗の印象に関する研究

現地での店舗印象評定や訪問客へのアンケート調査を通して、入店・再入店したくなる店舗の特徴
 を探る。

（共同研究歴分野）

- ・混雑感の緩和：混雑している状況で、混雑感を感じにくくする条件に関する研究
- ・自然災害に関わる風評被害の緩和：過剰に感じるリスクを低減するための情報提供

■ 研究事例



公益財団法人 日本交通公社
 発行：2014年4月10日

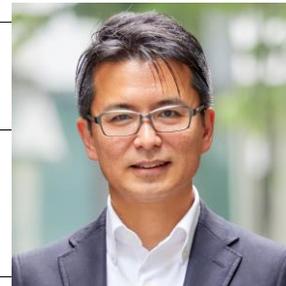
- 科研C 観光者の環境配慮行動を誘発する他者行動：旅の恥をかき捨てない観光者行動の為に
- 日本観光研究学会【論文】観光研究：2021年
 ・観光者の購買行動を促す店舗の評価に関する研究
 — 沖縄県那覇市国際通り周辺商店街における土産物購買の場合—
 上原 明・直井 岳人・飯島 祥二・伊良皆 啓
 2021年度日本観光研究学会優秀論文賞
- 公益社団法人日本都市計画学会【論文】都市計画論文集：2013年
 ・観光地としての歴史的町並みにおける地元の生活の様相
 — 訪問客のまなざしの対象と、それに対する住民の評価—
 直井 岳人・十代田 朗・飯島 祥二
- 公益財団法人 日本交通公社発行：2014年4月10日
 「観光における人と環境との関係 — 日本から知見が発信されることへの期待」
- Tourism Management：2011年
 ・Applying the caption evaluation method to studies of visitors' evaluation of historical districts
 直井 岳人・山田 孝延・直井岳人・熊澤貴之

■ アピールポイント

訪問客と観光地間の様々なギャップゆえに、観光は観光地に、混雑やストレスなどの悪影響を与えることもあり、それは訪問客の経験に悪影響を及ぼす。観光では、訪問客と観光地の適切なマッチングがとても重要であると捉え、観光地の環境要因が訪問客の印象や欲求などの心理的要因に与える影響に関して研究を行っている。

TAKAHASHI NOBUYOSHI

准教授 高橋 伸佳 n_takahashi@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 応用健康科学 経営学

観光を中心としたサービス業の事業開発、事業再構築、総合的実践支援
ヘルス・スポーツツーリズム、サービス・マーケティング、サービス品質

■ 研究の概要

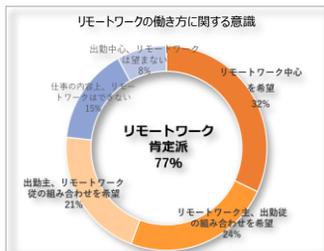
1. 応用健康科学：健康観光地・まちづくり、ヘルス・スポーツツーリズム、観光分野における衛生マネジメント
 - (1) 健康観光地・まちづくり：システムズエンジニアリングやZTCAデザインモデルなどの理論モデルを用いた健康観光地・まちづくりのための基本構想、基本計画、事業モデルの構築
 - (2) ヘルス・スポーツツーリズム：ヘルスケア、スポーツをテーマとしたニューツーリズム、着地型観光としての商品造成、サプライチェーンマネジメントの計画
 - (3) 観光分野における衛生マネジメント：新型コロナウイルス感染症対策などの衛生対応のマネジメント
2. 経営学：サービス・マーケティング、サービス品質
 - (1) サービス・マーケティング：サービス業全般におけるマーケティング計画・実施・検証
 - (2) サービス品質：サービス業におけるサービス品質向上の支援、サービス品質の設定・検証

■ 研究事例

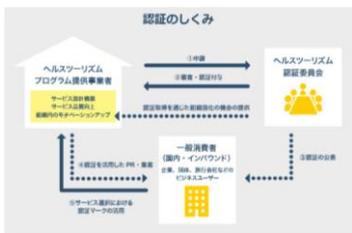
事例1 セミナー、ワークショップ



事例2 調査、解析、考察



事例3 政策・制度設計



事例5 プロジェクト推進 社会実装



事例4 プログラム・コンテンツ開発



■ アピールポイント

- ・特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構（業務執行担当理事）を通じた全国の地域活動支援
- ・日本経団連ヘルスケア産業部会「健康投資と企業経営」委員（2006～2007年）、経済産業省近畿経済産業局「健康文化産業の見える化」委員（2008年）、大阪市「健康予防医療プロジェクト」コーディネーター（2008～2009年）、国土交通省観光庁「ニューツーリズムの顧客満足度調査」委員（2011年）、静岡県「ふじのくにしずおか観光振興アドバイザー」（2011年～）内閣府「沖縄独自の医療情報基盤を活用した実践的医療サポート及び医療情報活用産業」委員（2015年）、栃木県「とちぎヘルスケア産業推進懇話会」委員（2016年～2019年）、東京商工会議所「健康づくり・スポーツ振興委員会」委員（2016年～）、東京消防庁「救急車適正利用等の促進に関する有識者会議」委員（2017年）、経済産業省「医療技術・サービス拠点化促進事業」研究会委員（2017年）、熊本県荒尾市「（仮称）道の駅あらお」委員（2018年～2020年）、都市再生機構「URまちづくり支援専門家」（2019年～）、埼玉県三郷市「三郷市都市型ヘルスツーリズム推進協議会」座長（2019年）、Go Toトラベル「コロナ対策全施設調査に関するアドバイザー」（2020年）、環境省「国立公園満喫プロジェクトにおける自然体験コンテンツのガイドラインに係る作成等業務」検討会委員（2020年）、日本観光経営学会理事（2020年～）他多数の委員研究員等歴任

講師 **野津 直樹** NOZU NAOKI
nozu@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 観光情報学

国内観光・インバウンド観光のデータ分析による観光資源の潜在需要の発掘、データおよび財務指標解析による経営指導

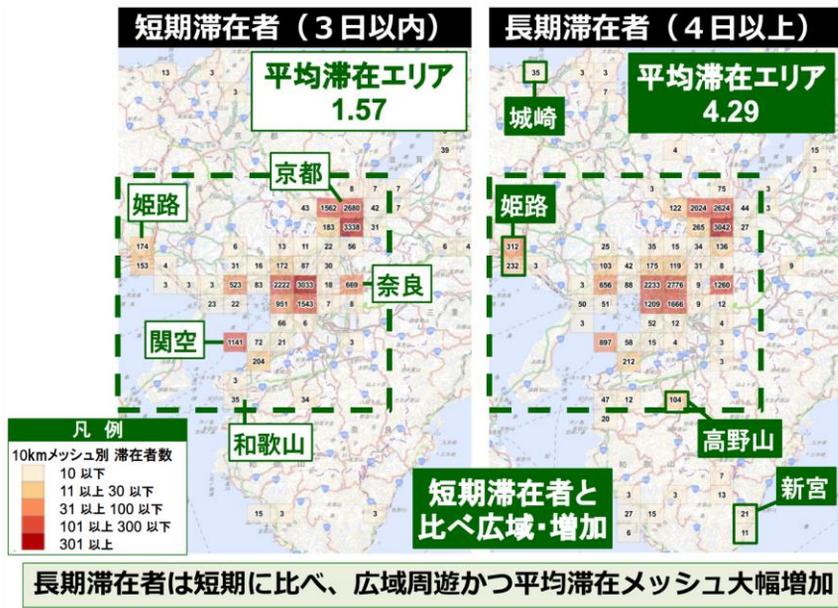
■ 研究の概要

- 国内観光・インバウンド観光のデータ分析による観光資源の潜在需要の発掘
 - ・国・自治体のオープンデータや分析ツールを使った国内観光・インバウンド観光動向のデータ分析により、地域の観光資源の潜在需要を探る。
- データおよび財務指標による経営指導
 - ・観光地が保管するデータを電子化、見える化することで、経営改善サポート。
 - ・決算・会計業務の支援、経営改善の指導。
 - ・大手企業の工場経理を5年担当、中小ベンチャー企業2社の経理・財務主幹を3年担当。

01

■ 研究事例 **訪日外国人の広域周遊促進に向けた検討 – 関空利用と滞在日数に着目して –**
(2016年7月 第13回観光情報学会全国大会発表 小竹・野津・西田・清水の共著)

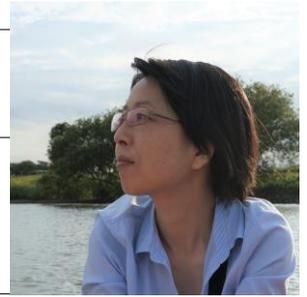
(株)ナビタイムジャパンが提供するスマートフォン向け多言語観光案内アプリ「NAVITIME for Japan Travel」を利用した訪日外国人のうち、日本滞在中の位置情報のデータ分析利用に承諾いただいた方を対象に、GPSデータを用いた属性別の滞在先選択傾向の分析を実施した。



■ アピールポイント

- 豊岡市役所とトヨタ・モビリティ基金が立ち上げた「豊岡スマートコミュニティ推進機構」のメンバーとして、豊岡に関するオープンデータを分析する仕組みやWebマップで可視化する仕組みの構築に関与。
- 豊岡演劇祭2020実行委員会のメンバーとして、モビリティのディレクションを担当。全但グループにご協力いただき、イベント内容に合わせたバス路線網・ダイヤの改善を提案したり、新たなオンデマンド交通の導入計画を主導した。また、BLEデバイスを使った観光客の移動経路の分析も実施した。

TAKAHASHI KAORI
 助教 高橋 加織 kaori_takahashi@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード ジェンダー研究、観光業における労働問題
 女性やマイノリティの職場環境及び生活環境の改善、インターンシップの構築
 及び支援

■ 研究の概要

1. ジェンダー研究：職場環境の改善

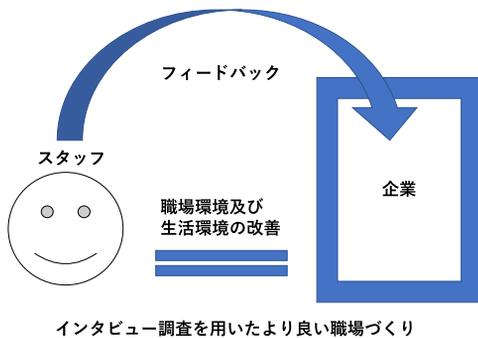
(1) 宿泊業における職場・生活環境の改善：インタビュー調査を行い、働く人（特に、女性、外国籍、障がい者など）の抱えている問題を明らかにすることで、職場の環境および生活環境の改善に貢献できる。宿泊業で働く人は、女性、外国籍の方、子育て中の方も多いためと予想される。近隣の親類縁者などのサポートがなくても子育てと就労を両立し、生活しやすい環境の整備や支援をおこなう。

2. 観光研究：宿泊業支援、インターンシップの構築および支援

- (1) 宿泊業のイベントや講習会（小中学生向け、地域住民向けなど）を企画できる。
- (2) 国内外の企業や教育機関と宿泊業におけるインターンシップの提案。

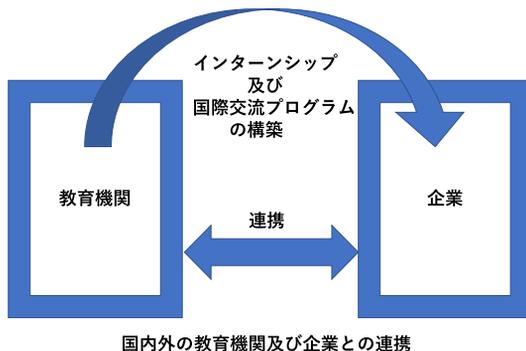
■ 研究事例

事例1. インタビュー調査を用いた職場および生活環境の改善



* インタビュー調査の結果を分析し、企業へフィードバックすることにより、職場環境及び生活環境を改善し、より良い職場づくりを目指します。

事例2. インターンシップの構築及び支援



* 国内外の教育機関及び企業の架け橋となるインターンシップ及び国際交流プログラムの構築を支援します。言語、文化、宗教、習慣などの異なる方々と交流することにより、企業、教育機関及び地域の多文化共生を実現します。

■ アピールポイント

ホテル業において国内外要人接遇を歴任。

NAKAMURA SATOSHI

助教 中村 敏

s-nakaamura@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード ツーリズム、観光交通、観光まちづくり、ユニバーサルツーリズム

- ・人的ネットワーク構築による地域課題の抽出・対策、観光需要平準化による持続可能な観光地づくり、観光資源価値を次世代へ継承する学生育成、観光ボランティアガイドへのアドバイス、ユニバーサルツーリズムの研究・人材開発

■ 研究の概要

○交通を観光資源ととらえた研究：

- ・観光派生需要と捉えてきた交通を、観光を目的とする交通として捉え、地域交通の活性化、沿線の地域社会に貢献する。
- ・但馬地域には、温泉、ジオパーク、歴史的遺産など、豊かな観光資源に恵まれる。しかし地域内の観光スポット間の移動が容易ではなく、観光需要が豊岡市と朝来市一部に集中していることから、鉄道や、基幹道路のネットワーク等を有効活用しながら、但馬地域の四季折々の観光魅力を有機的に結びつける滞在時間の演出を行う。
- ・羽田就航を目指すコウノトリ但馬空港の滑走路延長、北陸新幹線の福井県延伸等など但馬地域の観光入込客数の拡大や、山陰から北陸にかけての広範囲な観光圏を対象とする。
- ・次代へ向けた観光地域振興に資するためには、人的ネットワーク構築、但馬地域が一丸となって観光資源をブラッシュアップするとともに、季節変動にも対応した観光需要の平準化、観光資源を有機的に結びつけるプランの開発が必要であり、その基礎的な仕事に貢献していきたい。

○ユニバーサルツーリズムの研究：

障害者総合支援法に基づくガイドヘルパーとして約10年間、知的障がい、身体障がい、精神障がいなどのハンディキャップを抱える方の移動支援の実践経験を積んできた経験や、観光系と福祉系資格の両方を持つ稀有な経歴を活かし、観光や福祉に携わる地域の関係者とともに、ユニバーサルツーリズムについて多角的に研究を進め、地域に貢献したい。

■ 研究事例

- ・中村敏・小長谷一之（2014）「地域振興に資する観光列車戦略の分類と経済効果」『総合観光研究』第13号、p 37-46、総合観光学会
- ・中村敏（2011）「観光資源としての移動空間－JR九州の観光列車を事例とする一考察－」『日本観光研究学会全国大会学術論文集 26』、p 241-244、日本観光研究学会



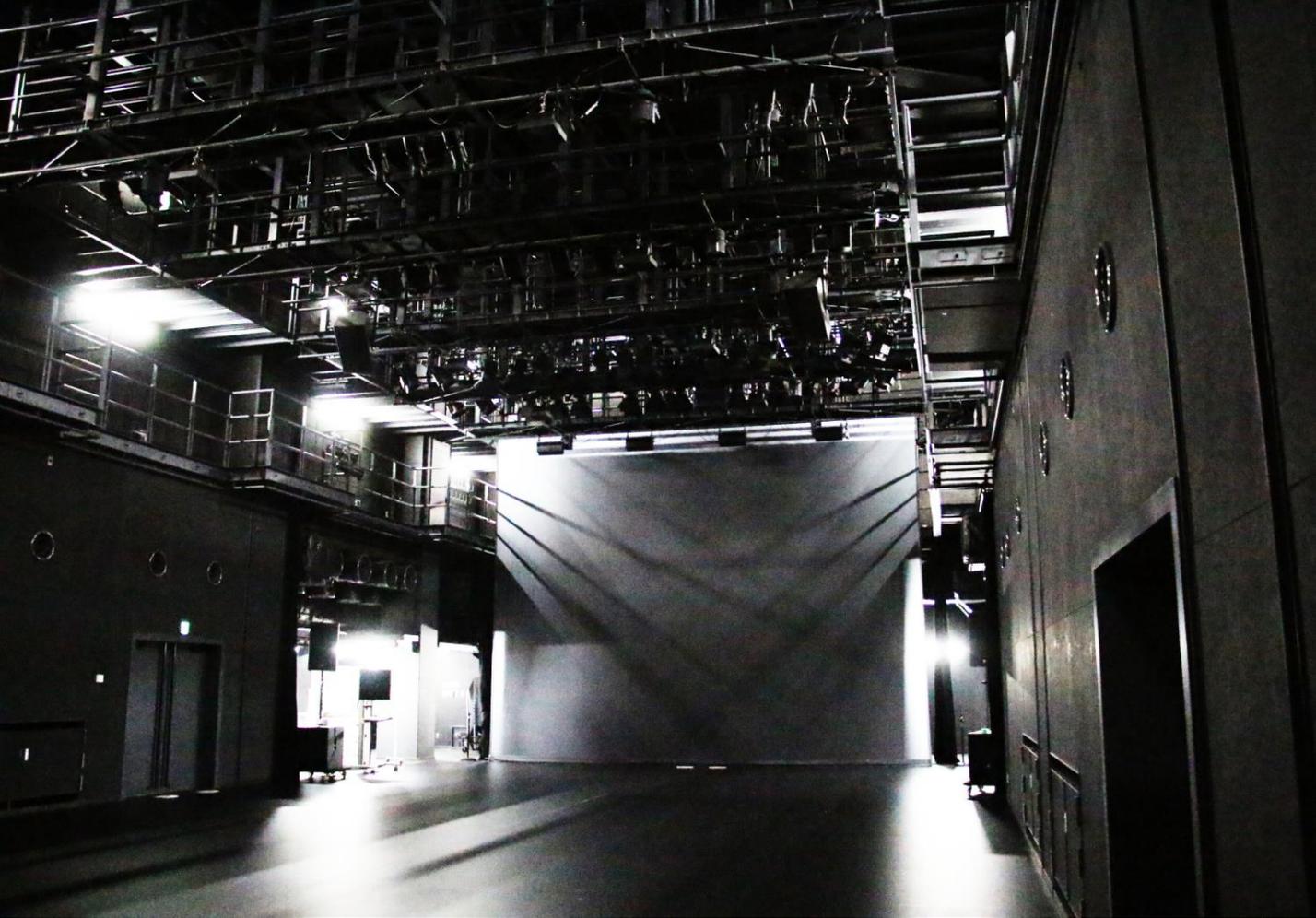
■ アピールポイント

○地域貢献

- ・高校生を対象とした観光教育のアドバイザー（群馬県立中央中等教育学校）
- ・観光ボランティアガイドへのアドバイス（堺都市政策研究所市民研究会議）

○取得資格

- ・国内旅行業務取扱管理者
- ・国内旅程管理主任者
- ・介護福祉士
- ・行動援護従業者
- ・同行援護従業者
- ・ホスピタリティ・コーディネータ



芸術文化（舞台芸術）

平田	オリザ	……	14頁
杉山	至	……	15頁
木田	真理子	……	16頁
児玉	北斗	……	17頁
平田	知之	……	18頁
石井	路子	……	19頁
山内	健司	……	20頁
河村	竜也	……	21頁
飛田	勘文	……	22頁
田上	豊	……	23頁

02

HIRATA ORIZA
学長 平田 オリザ



■キーワード 劇作家、演出家、劇団「青年団」主宰、こまばアゴラ劇場芸術総監督、江原河畔劇場芸術総監督
 戯曲の代表作に『東京ノート』『ソウル市民』三部作など。
 小説『幕が上がる』は、第70回毎日映画コンクールを受賞。

■研究の概要 日本の劇作家、演出家、現代口語演劇理論の提唱者

- 戯曲：『東京ノート・S高原から 戯曲集1』（1995年 晩聲社）
 『転校生 戯曲集2』（1995年 晩聲社）
 『火宅か修羅か・暗愚小伝-平田オリザ戯曲集<3>』（1996年 晩聲社）
 『南へ・さよならだけが人生か-平田オリザ戯曲集<4>』（2000年 晩聲社）
 『バルカン動物園』（2001年 ENBU研究所）
 『冒険王』（2001年 ENBU研究所）
 小説：『幕が上がる』（2012年 講談社）のち映画化（2015年2月28日公開）
 論評：『演技と演出』講談社<講談社現代新書>2004年
 『演劇のことば』岩波書店 2004年 のち<岩波現代文庫>2014年
 『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』講談社<講談社現代新書>2012年
 『新しい広場をつくる-市民芸術概論綱要』岩波書店 2013年
 『世界とわたりあうために』徳間書店 2014年
 『下り坂をそろそろと下る』講談社<講談社現代新書>2016年 他

02

■研究事例



リモージュ演劇学校公演『カガクするココロ』 稽古



豊岡市「中・高生アートチャレンジ！」ワークショップ（豊岡市民プラザ）

◆出版



青年団公演『東京ノート』（撮影：青木司）



バルカン動物園
 ENBU研究所 2001年発行



幕が上がる
 講談社 2001年発行

■アピールポイント

- 『東京ノート』第39回岸田國土戯曲賞受賞
 『月の岬』で読売演劇大賞優秀演出家賞
 『上野動物園再々々襲撃』読売演劇優秀作品賞
 『その河をこえて、五月』で朝日舞台芸術賞グランプリ
 『演劇1』『演劇2』が釜山国際映画祭でワールド・プレミア
 『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞受賞 他 受賞多数

SUGIYAMA ITARU

准教授 杉山 至



■ キーワード 舞台芸術、舞台美術

セノグラフィーを活用したワークショップやパフォーマンスの開催、文化資源（農村歌舞伎等）を生かした地域活性化、コミュニケーション・デザインによる地域公共交通のサイン計画やリブランディング

■ 研究の概要

1. セノグラフィー（舞台美術とランドスケープの複合）WSの開催と文化資源を活用したパフォーマンス開催。
2. 地域に残存する舞台芸術に関わる文化的文脈事柄のリサーチ：豊岡市の但東地域、日高、神鍋地域、養父市等に残存する農村歌舞伎舞台、神楽舞台、踊り・祭りの調査、分析と舞台芸術の手法による新たな運用提案と文化資源を生かした地域活性化の方法を共同で探る。
3. 浮世絵や絵画資料に描かれた竹野浜や一遍上人絵伝の丹後の久美浜等景観とシーンと物語から地域の再発見、令和の但馬八景や但馬百景から地域の魅力を発掘、観光と芸術をつなげた活性化を目指す。
4. またコロナ禍、身体性から脱車社会、健康で身近な自然と身体性を取り戻す『workable City』（歩ける都市・街）と地域の豊かな自然と文化資源を結び合わせ、『体感する但馬』を発見、実現する
5. セノグラフィー や舞台芸術が得意とするコミュニケーション・デザインの手法で地域の公共交通（例えば全但バス）のサイン計画やリブランディング を考える、等。

■ 研究事例



2020 劇団青年団『馬留 徳三郎の一日』
座・高円寺（東京）



2020シリアルナンバー『all my sons』シアターラム（東京）



2016 オペラ『海、静かな海』
ドイツ ハンブルク劇場（ドイツ）



2020 烏丸ストロークロック『まほろばの景』
東京芸術劇場・シアターイースト（東京）

■ アピールポイント

1. 『セノグラフィー フォーラム2017』『セノグラフィー スケッチ散歩ワークショップ』2017年のKIACでの活動
2. 宇都宮市 大谷町でのセノグラフィー（舞台美術）的観点から文化遺産の保存と今後の運用のあり方を考えるワークショップ。2019.11~2020.02
3. 『品川アーティスト 展』2012~でのワークショップの開催と会場レイアウトプラン等
4. 豊田市でのワークショップ（舞台美術ワークショップと農村歌舞伎舞台でのワークショップ）等…

KIDA MARIKO
 准教授 木田 真理子 m_kida@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 芸術人類学
 人類学における質的調査、モノの人類学、身体と情動の変容

■ 研究の概要

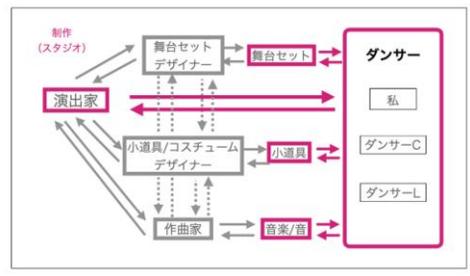
質的調査をもとに研究をしています。
 量的調査とは違い、集団の情報をデータにするのではなく、個人の経験に光を当てるところから研究が出発します。したがって、地域というマスを扱うのはどちらかという苦手としています。

人類学と社会学の質的調査の違いは、社会学は問題意識から出発しそれを解明するために調査をするのに対して、人類学ではフィールド調査に入る前にならずしも問題を設定しているとは限りません。人類学の分野では現場に飛び込んでみて実践しながら思考する人が多いような印象です。

このことから分かるように、効率的に成果を出すような学問ではありません。
 一見すると非合理的で無駄の多いところから人間や世界を見つめるため、効率性が求められる時代に生きる私たちが日々取りこぼしていくものに光をあてることを得意とします。

■ 研究事例

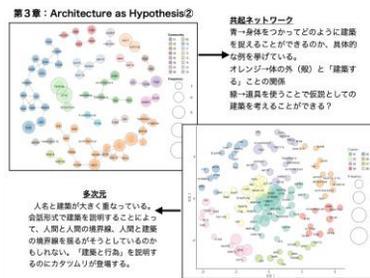
事例1：身体、モノ、環境の相互
 変容を調査、分析



事例2：地域住民、観光客への聞き取り調査



事例3：テキスト分析、考察



■ アピールポイント

2000年にローザンヌ国際バレエコンクール受賞後、カナダ、スウェーデンでプロダンサーとして活動。
 マッツ・エック振付「Juliet&Romeo」に主演し、2014年ロシアのブノワ賞を日本人で初めて受賞したのをはじめ、スウェーデン、イタリアなどで最優秀ダンサー賞、日本では文化庁長官表彰（国際芸術部門）を受賞。
 スウェーデン王立バレエ団でプリンシパルダンサーとして活動した後、2016年よりフリーランスに転身し、近年はモノや環境を含めた他者と身体の関係性や感覚に着目したダンスワークショップも実施。共著に『22世紀の荒川修作+マドリン・ギンズ ——天命反転する経験と身体』（フィルムアート社、2019年）がある。

KODAMA HOKUTO
講師 児玉 北斗



■ キーワード 振付（コレオグラフィー）、舞踊美学、パフォーマンス研究
地域住民とのワークショップを通じたダンス作品の創作

■ 研究の概要

子どもを含めた地域住民を対象に、ダンス・ワークショップの開催を通じて身体コミュニケーションを実践する。またダンス・パフォーマンスを共同創作し、上演する。

ダンス的手法を取り入れた身体表現ワークショップを通して参加者と相互理解を深めつつ、個々人の独自性が発揮される様なパフォーマンスを共同で創作することを目指す。出演者同士の交流にとどまらず、それを見に来る観客の共同体的体験を重視し、「参加」の様々なかたちを促すような実験的な試みを織り込んだ上演を行う。

「振付」という観点から、身体を媒体とした文化の構築・保存・伝達をめぐり、実践と考察を展開する。

■ 研究事例



↑（上写真4点）2019年、妙高市芸術文化財団主催「MYOKO SKOOL」
児玉北斗振付作品『ねむれないよるのうた』舞台風景
新潟県妙高地域在住の8歳から20歳までの出演者達と一緒に作品を創作・上演した。

■ アピールポイント

2001年より、アルバータバレエ、レ・グランバレエ・カナディアン、ヨーテボリオペラ・ダンスカンパニー、スウェーデン王立バレエなどで国際的に活動。マッツ・エック、アレクサンダー・エックマン、ヴィム・ヴァンデケープスなど世界的な振付家の創作にて主要な役を務めた。JAPON dance projectメンバーとして2014年と2016年の新国立劇場主催公演にて振付・出演、また2017年にトーキョーワンダーサイト本郷で自身初のソロ公演『Trace(s)』、2020年12月にはTHEATRE E9 KYOTOにて『Pure Core』を発表するなど、主体・身体・権力の連関について、ダンサーとしての当事者的な問題意識を基盤とした作品を制作している。2018年、ストックホルム芸術大学修了（MFA in Choreography）。ダンスの教育・実践と並行して研究活動も展開している。

HIRATA TOMOYUKI
講師 平田 知之 tomo3@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 研修 アクティブラーニング コミュニケーション教育

■ 研究の概要

わが国の演劇教育や演劇的手法を活用した研修・学習活動の歴史的展開が専門です。

一人で頭で考えるだけでなく、まず人と一緒に身体を動かしてみることで、人間関係を円滑にし、創造的に問題解決を図り、想定外の状況でも諦めずに取り組みを継続できる人材育成、組織づくりに資することを目指しています。

02

■ 研究事例

教育現場での探究活動の事例

・恵まれた家庭環境に育った生徒たちと、永山則夫（連続射殺事件犯）についての資料を研究して、評伝劇をつくる活動を通して、「多様性」や「社会包摂」について考える

人材育成研修（教員免許状講習）の事例

・演劇的手法を活用して、想定外の正解のない課題に創作的に取り組む活動を通して、コミュニケーションをうながし、人間関係をほぐし、体験を通して学力を高め、学校生活を豊かにするためのヒントを発見する

■ アピールポイント

文部科学省 コミュニケーション教育会議 ワーキンググループ委員（2010）

筑波大学教員免許状更新講習「演劇の専門家とつくる教室」講師（2010～2020）

文部科学省 ワークショップリーダー人材育成事業 コーディネーター（2011, 2014）

ISHII MICHIKO
講師 石井 路子



■ キーワード 演劇教育、表現教育

教員への表現教育ワークショップ、高等学校への表現ワークショップ（実習）

■ 研究の概要

- ・地域の教員へ向けての表現教育ワークショップの実施。
- ・表現教育科目履修生の実習として、但馬地域高等学校への表現ワークショップ出前授業の実施。
- ・身体表現・ボディワーク、セルフ・ナラティブ作品創作、高校演劇作品創作

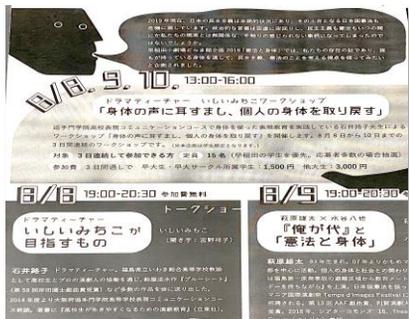
■ 研究事例



高校生が生きやすくなるための演劇教育(立東舎) 2017/5 いしいみちこ(著)、平田オリザ他著



追手門学院高校表現コミュニケーションコース 表現教育



高校3年生10月 WSデザイン実習



高校1年生2月 自画像公演

2019.8 早稲田小劇場どうら館企画 憲法と身体

■ アピールポイント

高校教諭として約20年ほど表現教育を実践してまいりました。目的は、所属コミュニティにおいて人と人をつなぐことのできる人材を育てること。芸術文化は娯楽をイメージされることが多いですが、芸術文化、表現は、本来人間にとってなくてはならないもの。芸術文化の力を知り、地域や社会のためにその力を駆使できる人を育ててまいります。互いに影響し合っている心と身体の関係について知ることは、自分自身と向き合うことです。そして、身体を通して他者を想像することが、他者や人間を理解することにつながります。自身を考えていく機会を提供してまいりたいと考えています。

YAMAUCHI KENJI
講師 山内 健司 k-yamauchi@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 演劇・演技

人と人が視点を交換するワークショップ・プログラムの開発、町歩きワークショップの実施、ファシリテーターの育成

■ 研究の概要

- 1) 子供と子供／子供と大人／地元の方と学生／学生と学生／地元の方と来訪者／来訪者と来訪者が出会い、視点を交換することを、ワークショップで実践。
- 2) 町歩きワークショップは、「路上観察」を共にして、個人個人の「気になる」を収集し、交換します。もっとも個人的な感覚を可視化していきます。他者とフラットに、身体に近いレイヤーで出会うことを企画し、実践。
- 3) 地域や社会の、いわゆる大文字のエピソードではなく、いま・ここにいる人の感覚をつかまえます。それは情報として消費されるものではなく、他者と出会う体験そのものです。これを芸術作品の創作の土壌とします。
- 4) 人と人が出会うことは、時にとてもハードルが高いです。参加者の心の安全を守りつつ「人と人が視点を交換する」プログラムを実施する志と技術が必要となります。そのような技術を備えたファシリテーターを育成。

■ 研究事例

事例1：「しゃべり言葉を調べるワークショップ」を2001年より実施。私たちの本物の話し言葉を分析し、その豊かさを発見するプログラム。

事例2：路上観察学会分科会 2016～ <https://bit.ly/2C7oNif>
路上観察を取り入れたワークショップを実施。個人の「気になる」を起点に場所と出会う。他者と「気になる」を共有することで、町にアプローチ。

事例3：町歩きのリサーチをもとにした作品制作。「シアターゾウノハナ」（2014,2015,横浜）,「マーチ」（2016,2017,東京・下北沢）,「The End of Democracy」（2017,横浜）,「きくたびプロジェクト」（2018,横浜美術館）,「くきはつこのおもいで」（2018,横浜）「その旅の旅の旅」（2020,フェスティバルTOKYO）

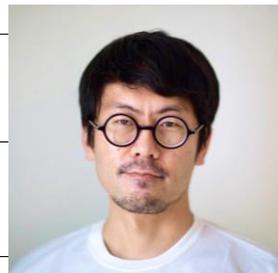
■ アピールポイント

俳優。1984年より劇団青年団所属。リアルな作品からコンテンポラリーな作品まで、幅広い舞台作品へ参加するほか、フランス、韓国との国際共同制作に多数参加。劇場の外で、街や人と直接関わる演劇にも力をいれる。

- ・平成二十二年度文化庁文化交流使として全編仏語一人芝居をヨーロッパ各地の小学校で単身上演
- ・バレンシア映画祭2019最優秀演技賞
- ・ショートショートフィルムフェスティバル2018インターナショナル部門ベストアクター賞

KAWAMURA TATSUYA

助教 河村 竜也 t_kawamura@stdat.at-hyogo.ac.jp



- キーワード
- 舞台芸術作品およびフェスティバルのプロデュース、豊岡演劇祭、芸術文化の振興、アートマネジメント、海外との国際共同制作、劇場運営、俳優

■ 研究の概要

アートプロデューサー、アートマネージャー、俳優、アートフェスティバル、劇場運営

◆ 舞台

- ・【出演】「東京ノート」：青年団、作・演出：平田オリザ
- ・【出演】「日本文学盛衰史」：青年団、作・演出：平田オリザ
- ・【出演】「砂と兵隊」：青年団国際交流プロジェクト（日仏）、作・演出：平田オリザ
- ・【出演】「MONTAGNE/山」：日仏共同制作 作・演出：トマ・キヤルデ
- ・【出演・プロデュース】「珈琲法要」：ホエイ、TGR札幌劇場祭大賞受賞
- ・【出演・プロデュース】「郷愁の丘ロマンピア」：ホエイ、第63回岸田国土戯曲賞最終候補

他多数

◆ 映画

- ・【出演】「歓待」
- ・【出演】「東京人間喜劇」
- ・【出演】「SHARING」

■ 研究事例



「珈琲法要」 ©Nagare Tanaka

舞台【出演・プロデュース】ホエイ「珈琲法要」

舞台【出演・プロデュース】ホエイ「郷愁の丘ロマンピア」



©igaki photo studio

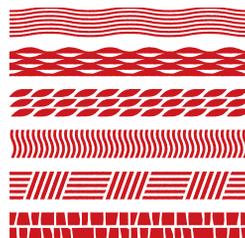
舞台【出演】「MONTAGNE/山」：日仏共同制作



「ジェファソンの東」

映画「歓待」出演 深田晃司監督

映画「ジェファソンの東」出演 深田晃司監督



豊岡
Toyooka
Theater
Festival
演劇祭
2021

豊岡演劇祭2021プロデュース

■ アピールポイント

豊岡演劇祭のプロデュース業務、舞台芸術作品の制作（国際共同制作含む）業務

HIDA NORIFUMI
助教 飛田 勘文 n.hida@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 児童演劇、演劇教育、イギリス演劇、英語教育、多文化共生教育

児童演劇の演出研究、演劇を導入した教材の開発、演劇を生かした教員養成・教員研修、ティーチング・アーティストの育成、芸術による社会的包摂・多文化共生社会の構築

■ 研究の概要

- 1) 児童演劇、演劇教育、応用演劇、イギリス演劇に関する講座の実施
- 2) 保育園や幼稚園、小学校、中学校、高等学校における表現教育・演劇教育の実施、および調査
- 3) 表現教育、演劇教育、教育方法に関する教員研修の実施、先生との教材・教育方法の共同開発
- 4) 児童演劇の創作と巡回公演
- 5) 劇場、福祉施設、国際交流協会等での演劇ワークショップの実施、および調査
- 6) 地域の人々とのコミュニティー・シアターの創作
- 7) 企業等でのワークショップの実施、とくに芸術による創造性の開発
- 8) 演劇資料の収集、保存、展示
- 9) 外国ルーツの人々との日本語教育・多文化共生教育活動の実施
- 10) シンポジウム、セミナー、ワークショップ、上映会等の企画
- 11) 海外の子どもや教師、芸術家、大学との国際交流・国際学術交流

■ 研究事例

事例1 児童演劇の創作



事例2 ワークショップ



事例3 セミナー



事例4 調査、教材開発



■ アピールポイント

言語文化教育研究会理事、アシテジ〈国際児童青少年舞台芸術協会〉日本センター理事、国際青少年演劇研究ネットワーク (ITYARN) 理事、ニューヨーク大学紀要『ArtsPraxis』編集委員、2020国際子どもと舞台芸術・未来フェスティバル実行委員会常任委員、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館招聘研究員、イギリスの劇団「A Thousand Cranes」アソシエイト・アーティスト

TANOUE YUTAKA
 助教 田上 豊



■キーワード 高大連携ワークショップ 地域連携事業
 アートを中心としたワークショップ事業の開発、地域連携事業

■研究の概要

1. 高大連携ワークショップ：プログラム開発、ファシリテーター育成、ニーズ調査、研究会の創出
 - (1) プログラム開発：教育現場における実演家の実施する表現ワークショップ、観光学と連携したワークショップのプログラムの検証と構築
 - (2) ファシリテーター育成：ワークショップ実施時の進行術の検証と研鑽
 - (3) ニーズ調査：但馬地区の高等教育の現場における表現ワークショップのニーズと諸問題の調査
 - (4) 研究会の創出：高大連携の強化を目的とした双方の教員による意見交換やワークショップ研究のための「場」の開発
2. 地域連携事業の開拓：表現活動、地域産業とのマッチング
 - (1) 表現活動：多角的な目的に即した表現活動（ワークショップやクリエイションを起点とした）の場と機会の創出
 - (2) 地域産業とのマッチング：地域の産業との共同ワークショッププログラムの開発

■研究事例

事例1 演劇ワークショップ



事例2 国際共同制作事業



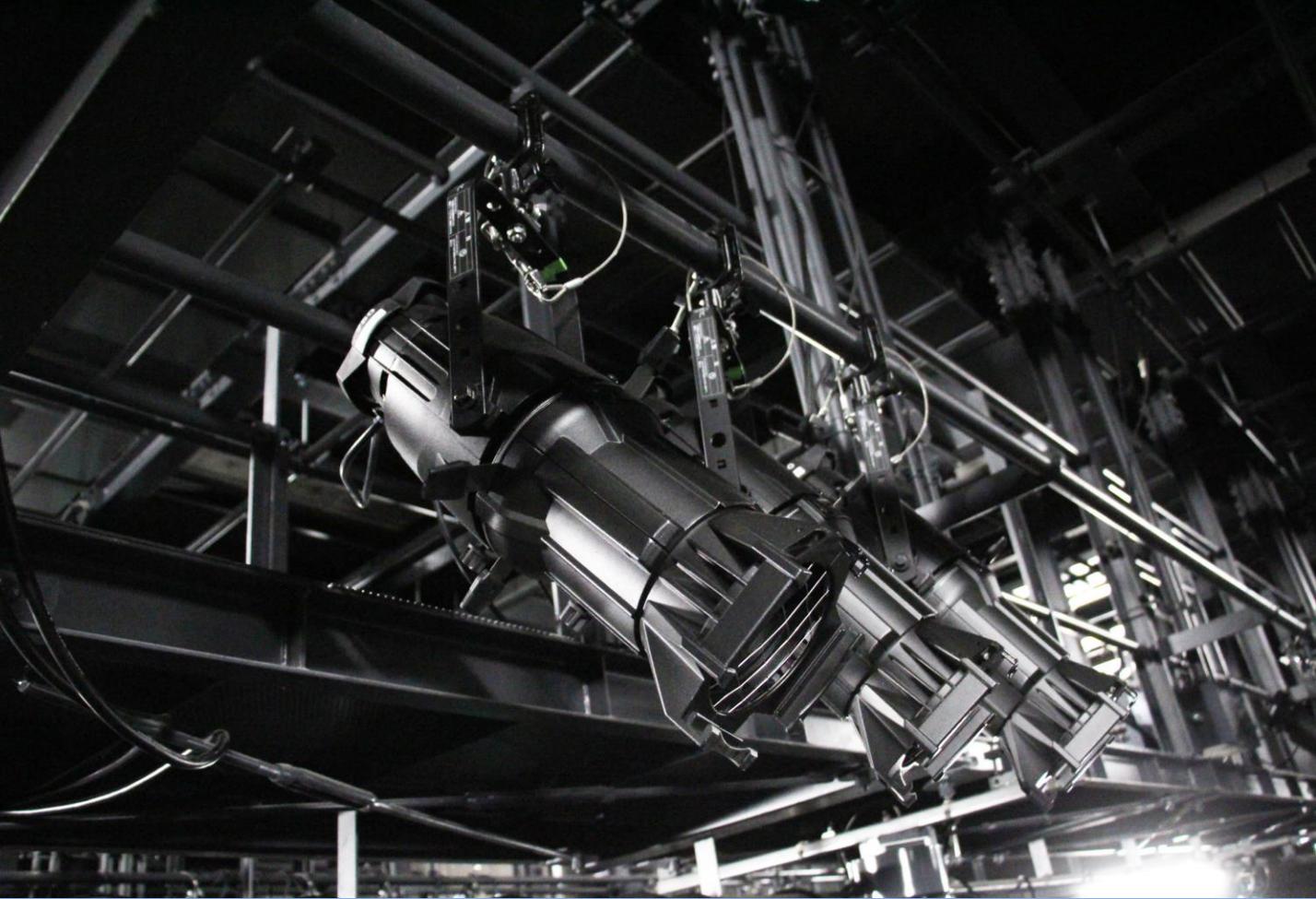
事例3 青山学院大学社会情報学部・苅宿研究室による田上豊のワークショップレポート
<https://kariyado-lab.si.aoyama.ac.jp/post/184452950164>

事例4 ならのまちとつくる演劇 インタビュー
<https://kotohogunara.jp/theater/3504>

事例5 「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」鹿児島セッション報告
<https://www.jafra.or.jp/library/letter/backnumber/2018/288/2/4.html>

■アピールポイント

富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督、一般財団法人地域創造リージョナルシアターシリーズ登録アーティスト、奈良市アートプロジェクト〈古都祝奈良〉舞台芸術部門ディレクター、他



芸術文化（アートマネジメント）

藤野 一夫	25頁
熊倉 敬聡	26頁
古賀 弥生	27頁
尾西 教彰	28頁
李 知映	29頁
近藤 のぞみ	30頁
小林 瑠音	31頁
井原 麗奈	32頁

03

教授 FUJINO KAZUO
藤野 一夫



■ キーワード 文化政策、アートマネジメント

条例・基本計画・ビジョン・アクションプランの策定とその評価、指定管理者の選定、仕様書作成、管理運営に対する評価等、劇場・音楽堂等の外部評価、文化振興財団の事業評価、公共文化施設の基本計画策定、自治体文化審議委員会の委員

■ 研究の概要

本学素案策定から関わっておりますので、全般的に対応可能。文化政策領域は、ほぼ全ての支援事業に関与経験あり。文化振興条例、基本計画、ヴィジョン、アクションプランの策定とその評価、改善提案など。また、指定管理者の選定の仕様書、評価書の策定、実際の選定、および指定管理者の管理運営、事業評価など。さらに、劇場・音楽堂等の外部評価、文化振興財団の事業評価などを実施。公共文化施設の基本計画策定、自治体文化審議委員会の委員（座長）などを歴任。文化振興財団、アートNPOの役員も多数兼任。

■ 研究事例

(1)文化振興条例、基本計画等の策定・共同研究

神戸市（文化創生都市宣言、同プログラム、ビジョン、新文化ホール基本計画）、明石市（条例、基本計画、審議会）、芦屋市（条例、基本計画、審議会）、豊中市（条例、基本計画、審議会）、大阪府市（条例、基本計画、審議会）、豊岡市（基本計画、新文化会館基本計画）、吹田市（条例、基本計画、審議会）、東大阪市（条例、基本計画、審議会）、丹波市（基本計画、審議会）、八尾市（条例制定検討中、基本計画、審議会）、横浜市（新たな劇場基本計画）

(2)新型コロナウイルスの影響下における兵庫県内の芸術文化活動に関する調査研究

<https://kobearthresearch202.wixsite.com/report>

(3)アートマネジメントに関する研究等

文化・芸術を生かしたまちづくり研究会

<http://www.masse.or.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/17/bunka-saisyu.pdf>

アートマネジメントの広場

<https://kuamken.wixsite.com/artmanagement>

■ アピールポイント

以下現職のみを記載：（公財）びわ湖芸術文化財団理事、（公財）神戸市民文化振興財団理事、（公財）明石文化芸術創生財団評議員、横浜市新たな劇場整備検討委員会委員、大阪府市文化振興会議委員、豊中市文化芸術振興審議会副委員長、芦屋市文化振興審議会委員長、吹田市文化審議会委員長、東大阪市文化芸術審議会委員、（公財）尼崎市文化振興財団外部評価委員会委員長、八尾市芸術文化振興プラン推進市民会議座長、その他自治体委員、NPO法人の理事など多数。

KUMAKURA TAKAAKI
 教授 熊倉 敬聡 kumakura@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 芸術学 文化実践
 芸術と社会、理論と実践のインターアクション

■ 研究の概要

フランスでの博士論文『ステファヌ・マラルメの〈経済学〉』以来、私の関心は、常に芸術と社会がどのように相互に（反）作用するかにありました。そして、その関心は、現在では（芸術・芸能も含めた）精神性と新しい社会・経済の在り方の探究にいらっています。

ただし、私はその探究を単に理論的に行なってきたのではなく、たえず理論と実践が自分の中で相乗する形でやってきました。コンテンポラリー・アートやダンスを研究・評論しつつ、自分でも創作したり踊ったり、あるいは、（大学を含めた）現代の教育環境について研究しつつ、新たな学びの場を作り出してきました。慶應義塾大学時代には、学びたい者が学びたいように学ぶ「セルフ・エデュケーション」的授業の実践、さらにはそれを地域づくりと連動させた「[三田の家](#)」などの運営に携わってきました。また、数年来暮らしてきた京都では、社会起業家の国際ネットワークの京都拠点 [Impact Hub Kyoto](#) を、Dojo for Changeというコンセプトで立ち上げ、運営しました。

また最近では、博報堂の [University of Creativity](#)、あるいはGlobal Ecovillage Network Japanの [Gaia Education](#) にも携わり、持続可能な創造性、あるいはコミュニティづくりにコミットしています。

03

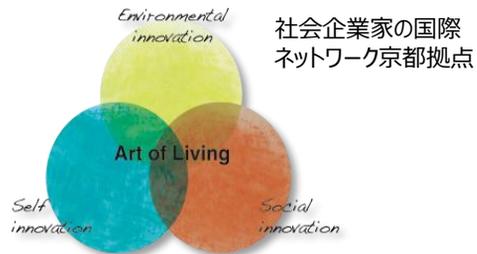
■ 研究事例

事例1 三田の家



慶應義塾大学の教員・(元)学生、商店街有志が設立した組織

事例2 Impact Hub Kyoto



事例3 最新刊『[藝術2.0](#)』



(主な著作) 春秋社 2019.5.17発刊

事例4 University of Creativity



持続可能な文明を創造するクリエイティビティを議論・研究・実験していく研究教育機関2020年開設

■ アピールポイント

主な著作に『GEIDO論』（仮題、近刊予定）、『藝術2.0』、『瞑想とギフトエコミー』、『汎瞑想』、『美学特殊C』、『脱芸術／脱資本主義論』など。編著に『セルフ・エデュケーション時代』、『女？日本？美？』など。

教授 ^{KOGA YAYOI}
古賀 弥生



■キーワード 文化政策学、アートマネジメント

社会包摂型の芸術体験活動に関するコーディネート、参加型芸術活動におけるコーディネーターの育成。文化ホール等の事業企画や運営に対する地域人材の育成。自治体の文化振興条例、計画、ビジョン等の策定

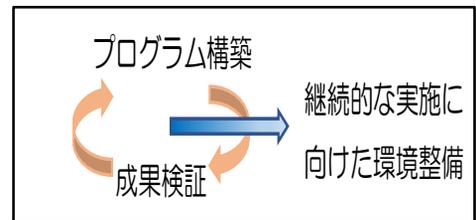
■研究の概要

1. 社会包摂型地域社会の構築への芸術文化による関与のあり方に関する研究
すべての人が地域社会との関わりを保ちながら生活する環境を創出するために芸術文化ができることを探り、その実現のための体制づくりを検討する。
社会的処方と芸術文化の関係を深めることも含む。
2. ヘルスツーリズムへの芸術文化活動の導入に関する研究
健康づくりや疾病予防と観光を結ぶヘルスツーリズムに芸術文化体験の要素を加えることで、観光業の振興と芸術文化振興の両面に寄与するプログラムの構築、推進体制の整備等を提言する。

■研究事例

1. 社会包摂型地域社会の構築への芸術文化による関与のあり方に関する研究

- 1) 認知症カフェにおける芸術体験ワークショップのプログラム構築と成果検証
- 2) フリースクールにおける演劇ワークショップの実践と検証



2. ヘルスツーリズムへの芸術文化活動の導入に関する研究

- 1) パーキンソン病患者のダンス活動に関するエピソード記述による分析

■アピールポイント

各種委員等2020年度実績

- ・芸術文化振興基金運営委員会文化施設公演活動等専門委員会専門委員
- ・福岡県営筑後広域公園・芸術文化交流施設「九州芸文館」運営協議会委員
- ・福岡県文化財保護審議会臨時専門委員
- ・福岡市文化芸術振興財団理事
- ・福岡市文化施設管理運営評価委員会委員 ほか

ONISHI NORIAKI
准教授 尾西 教彰



■ キーワード 舞台芸術（演劇の企画制作、劇場・劇団運営、舞台芸術人材の養成）

劇場・文化ホール等の事業企画・運営等、小中高校等での舞台芸術の学習・創造活動支援

■ 研究の概要

- ①地域状況を踏まえた有効な事業の実施、文化資源の活用、円滑な施設運営の推進
- ②住民ニーズ、将来の地域像・必要コスト等を考慮した文化施設の有効活用、活性化の推進
- ③舞台芸術に係る知識・技術の普及・浸透による、地域の文化リーダー、豊かな地域コミュニティの創出
- ④「小中高大接続」、「社会に開かれた教育課程」「アクティブ・ラーニング」といった教育課程改革の推進

■ 研究事例

《研究活動》

- 大阪大学文学部および同大学院文学研究科の演劇学専修を修了。（修士（文学））
- ・大学生時代は古典芸能（特に能楽・狂言）の歴史・台本研究を行い、実際の舞台出演も経験。
〈卒業論文〉『狂言における「秘曲」の展開 –「釣狐」の主題の変遷を巡って–』
- ・大学卒業後、兵庫県立の劇場に勤務。現場実務の経験をもとに、地域の公立文化施設における舞台芸術創造、特に人材育成事業を通じたコミュニティづくりの可能性について、社会人大学院生として研究。
〈修士論文〉『公立劇団の活動における〈地域〉意識の変容 –兵庫県立ピッコロ劇団の活動を通じて–』

《職歴》

- 平成8年7月、現・公益財団法人兵庫県芸術文化協会に入職。昭和53年開館された兵庫県立尼崎青少年創造劇場〈ピッコロシアター〉において、演劇教育専門員として勤務。

《主な実務経験》

- 鑑賞事業、文化セミナー、市民参加型イベントなど、劇場事業全般。特に、舞台芸術の学びを通じて地域文化を支える人材の育成を目指す「ピッコロ演劇学校」（昭和58年開設）・「ピッコロ舞台技術学校」（平成4年開設）、さらに人材育成事業の集大成として設立された、全国初の県立劇団「兵庫県立ピッコロ劇団」（平成6年旗揚げ）の企画制作を中心に担当。



ピッコロシアター外観



演劇学校発表会風景



舞台技術学校 授業風景

■ アピールポイント

平成21年度文化庁新進芸術家海外研修制度（アートマネジメント分野）特別派遣研修員。西豪州の地方都市パースから世界的に活躍する演劇人を輩出する西豪州立舞台芸術アカデミー（The Western Australian Academy of Performing Arts）で研修。豪州における舞台芸術の創造環境・人材育成について滞在調査。卒業生の動向調査等をもとに、公立による舞台芸術教育のあり方や意義、地域振興との関わりについて研究。

LEE JIYOUNG
 講師 李 知映 jinbangul@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 文化政策学、文化経営学、演劇学、文化資源学
 国の文化政策及び各自治体の芸術文化振興、芸術文化とまちづくり、文化施設を取り巻く社会環境、各文化施設のより良い運営

■ 研究の概要

私はフィールドワークを通じて、主に①国の文化政策及び各自治体の芸術文化振興②芸術文化とまちづくりに関する取り組み③文化施設を取り巻く社会環境④各文化施設のよりよい運営、の4つを研究対象として研究を行っている。

近年はとりわけ、①「日本における劇場産業化政策の課題」（科学研究費補助金（若手研究）、研究代表者）、「文化政策における政策評価の制度、方法、指標に人文知を応用して構築する研究」（科学研究費補助金（基盤研究B）、研究代表者：小林真理、研究分担者）、「新たな価値創造をする文化遺産活用の国際共同研究 ユーザー関与度深化、地域作りの視点」（課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業（日本学術振興会）、研究代表者：河島伸子、研究分担者）の研究に力を注いでいる。

■ 研究事例

事例1 調査票調査、解析、考察
 「文化芸術振興基本計画」市民アンケート

<回答結果>

回答	回答数	回答数全体に対する割合
1 本人の生活の中に、文化芸術が自然と浸透している	90	13.9%
2 キラキラとした印象の中に、市民の文化芸術活動が息づいている	46	7.1%
3 身近な地域の公共施設を中心に、市民の文化芸術活動が活発な	93	14.4%
4 文化芸術と自然の調和がとれている	45	7.0%
5 暮らしの中で自然に文化芸術を感じられる（路上アートなど）	22	3.4%
6 子どもたちの文化芸術活動が盛んな	57	8.6%
7 文化人や芸術家が生まれ育ち、活動の拠点となっている	14	2.2%
8 富饶な自然の文化芸術を求め、あから多くの人々が訪れている	45	7.0%
9 文化芸術をきっかけとした、人と人とのつながりがある	67	10.4%
10 市民が一体となって、文化芸術に親しんでいる	23	3.6%
11 福祉やまちづくり、教育部門といった様々な分野に文化芸術が浸透している	46	7.1%
12 伝統芸術・伝統文化の保存、継承者の育成が盛んな	31	4.8%
13 3年くらい前から中心に、市内内にとどまらず、世界規模に入力して文化芸術を推進している	13	2.0%
14 文化芸術を通して、地域の歴史や産業、自然が一体となって可視化し取り組める	49	7.6%
15 その他	5	0.8%
合計	646	100%

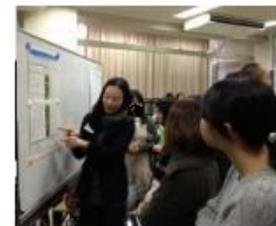
事例2 関連セミナー ワークショップ
 「文化芸術の活性化による町づくり」



事例3 報告書等の出版
 ばもす！おおまち
 -地域文化コーディネーター派遣モデル事業報告書-



事例4 学会でのポスターセッション発表
 「文化のまちづくりのための調査・方法論への一考察」



■ アピールポイント

- ①平成24年4月～平成27年3月：長野県大町市「文化芸術の活性化による町づくり」計画の運営及び実施案について検討、活動アシスタント、指導教員と共に市民文化会議のファシリテーター
- ②平成25年4月～平成27年3月：埼玉県富士見市「富士見市文化芸術振興基本計画のための基本施策の策定」調査協力及びアクションプラン策定の協力、「富士見市文化芸術振興委員会」「富士見市文化芸術ワークショップ」ファシリテーター
- ③平成27年11月～平成28年3月：大町冬期芸術大学企画プロデュースコースアシスタント
- ④平成29年4月～平成30年3月：相模湾・三浦半島アートリンク（SaMAL = Sagami Bay and Miura Peninsula Art Link）推進会議委員
- ⑤平成30年6月～平成31年3月：東京都大田区「文化振興推進協議会文化施設のあり方分科会」副委員長
- ⑥平成31年4月～令和3年3月：「武蔵野市の文化を考える市民の会」委員、他

KONDO NOZOMI
講師 近藤 のぞみ



- キーワード アートマネジメント、文化政策、文化行政
文化施設の運営、事業計画、組織運営、まちづくり、
国際音楽祭、アウトリーチ事業、ボランティアの育成

■ 研究の概要

文化会館をはじめとした文化施設の運営や文化事業の企画・運営に15年以上携わってきた。また日仏の文化会館の比較なども行っており、「まちに根差し社会に開かれた劇場やホールの在り方」について探求している。

また、本校に着任したことをきっかけに、劇場やコンサートホールがどのように観光に寄与するかについて、興味を持っている。

【関心のあるテーマ】

- ・文化会館や文化施設の市民に身近な運営の在り方
- ・文化施設での専門職員の雇用および活用、キャリアアップの仕組み
- ・クリエーションの場としての劇場やコンサートホールの運営
- ・音楽祭や演劇祭などの文化事業による地域づくり
- ・観光客を引き寄せる劇場やコンサートホールのプログラムづくり

■ 研究事例・実践事例

(1)文化事業の企画・実施

- ・国際音楽祭やコンサートの実施
- ・演劇やダンス公演の実施
- ・国際コンクールの運営
- ・市民オペラの制作
- ・演劇などのワークショップの企画運営
- ・病院や学校などでのアウトリーチの実施や巡回の仕組みづくり
- ・コンサート運営にかかわる市民ボランティアの育成
- ・街中パレードの実施

(2)研究事例

- ・フランスの文化会館「文化の家」についての研究
- ・フランスの地方都市で行われる国際音楽祭についての研究
- ・県立芸術文化センターの公共性についての調査

■ アピールポイント

現場経験を活かしたアドバイスが可能。

また、クラシック音楽、演劇、オペラ、映画、コンクール、市民美術展と幅広く経験している。

【例】

- ・新設や既存の文化会館や文化施設の運営
- ・事業プログラムの作成や運営
- ・事業を運営する上での組織体制
- ・助成金申請などの書類の作成
- ・国際音楽祭などの制作業務（招聘手続きやプランニング）
- ・病院や学校などでのアウトリーチ事業の組み立て
- ・ボランティアセミナーの開催など、市民を巻き込む仕組みづくり
- ・文化芸術を核にしたまちづくり

KOBAYASHI RUNE
講師 小林 瑠音



■ キーワード 文化政策、現代アート、アートマネジメント

英国アーツカウンシル史、コミュニティ・アート史、
地域密着型アートプロジェクトの実践と評価

■ 研究の概要

1. 文化政策：英国アーツカウンシル史、芸術の社会的インパクト評価
 - (1) 英国アーツカウンシル史：アーツカウンシル制度（芸術事業の助成や評価を行う専門機関）のモデルとなっている英国アーツカウンシルの歴史の変遷と日本への応用可能性に関する研究
 - (2) 芸術の社会的インパクト評価：芸術事業が社会にもたらす影響に関する定性評価手法の研究
2. 現代アート：コミュニティ・アート史、地域密着型アートプロジェクト
 - (1) コミュニティ・アート史：英国の事例を中心に、社会経済的困窮地区の住民を主体とした芸術活動の歴史と文化政策の影響に関する国際比較研究
 - (2) 地域密着型アートプロジェクト：過疎高齢化対策や地方再生を目的とした芸術祭の事例研究、評価・アーカイブ手法の分析
3. アートマネジメント：子どもとアート
 - (1) 子どもとアート：大阪の小劇場應典院を会場にした子どもと大人のアートフェスティバル「キッズ・ミート・アート」の企画・運営および幼児教育や教育哲学の専門家との共同研究。

■ 研究事例

事例1. 「1960年代から1980年代における英国コミュニティ・アートの変遷とアーツカウンシルの政策方針」『文化政策研究』第9巻、pp7-23、2016

事例2. 日本における地域密着型アートプロジェクトの歴史と課題



写真：アーツカウンシル東京主催公開研究会「アートとコミュニティを巡って（1）：イギリスの経験から」

事例3. 子どもとアート「キッズ・ミート・アート」（アートフェスティバルの実践および共同研究）



■ アピールポイント

應典院アートディレクター（2011-2015）、大阪府立江之子島文化芸術創造センターアーティストサポートプログラム審査員（2017-2018）、おおさか創造千島財団助成選考委員（2019-）、一般社団法人CHISOU（奈良県立大学実践型アートマネジメント人材育成プログラム）理事（2020-）、ICA京都プログラムディレクター（2020）他

IHARA RENA

助教 井原 麗奈



■ キーワード 近代文化史、文化施設の研究、アーツマネジメント
文化施設、文化財調査、アーツマネジメント

■ 研究の概要

- 1: 文化施設、文化財調査: 戦前に設置された公会堂の研究
- 2-1: アーツマネジメント(音楽以外の分野): 伝統芸能、現代美術、文芸系のアーティストと連携したワークショップ、講演会、展覧会などの運営(京都芸術センター、神戸大学、静岡大学などでの実績)。
- 2-2: アーツマネジメント(音楽): 「有限責任事業組合アンサンブル・ラロ, ジャパン」の経営。
＜事業内容＞
 - ・音楽公演の演奏請負・個人、団体に対する音楽の演奏指導・演奏家のマネジメント
 - ・コンサートの企画、運営、広告、宣伝、事務代行・文化・芸術に関する調査、研究、人材育成
 - ・録音物、印刷物等の企画、編集、出版、販売・芸術文化施設の管理、運営など。

■ 研究事例

主な投稿論文・研究ノート

1. <論文>「1930~1940年代の朝鮮半島における「女優」という職業について—映画の製作と興行の発展を背景に—」平成23年3月/神戸女学院大学女性学インスティテュート紀要「女性学 評論」第25号(P.25~P.52)
2. <論文>「近代日本の公会堂にみる公共性-明治後期(1910年代)から昭和初期(1930年代)までの京阪神を中心に—」平成23年12月/日本アートマネジメント学会学会誌「アートマネジメント研究」第12号(P.27~P.38)
3. <論文>「植民地期朝鮮の公会堂に対する支配権力の認識について—都市における設置状況と運営主体を中心に—」平成25年2月/日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第6号(P.19~P.34)
4. <論文>「大阪市中央公会堂貴賓室(特別室)」の天井画・壁画の公共性に関する考察」平成26年12月日本アートマネジメント学会学会誌「アートマネジメント研究」第15号(P.16~P.28)
5. <研究ノート>「戦前期の行幸啓からみる公会堂の公共性」平成27年3月/日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第8号(P.79~P.93)
6. <論文>「公会堂と「社交」—戦前期における利用者の社会階層を視点として—」平成27年12月/日本アートマネジメント学会学会誌「アートマネジメント研究」第16号(P.24~P.35)
7. <研究ノート>「公会堂にみる「公」と「私」の境界線」平成27年12月/神戸女学院大学紀要「論集」第62巻第2号(P.41~P.59)
8. <研究ノート>「京都市岡崎公会堂: 文化の中心としての役割について」平成28年3月/日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第9号(P.84~P.97)
9. <事例報告>「台湾における近代文化の保存と継承—公会堂を中心としたフィールドワークに基づいて」平成29年5月/日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第10号(P.123~P.131) 共著
10. <研究ノート> 「旧小樽区「公会堂使用決裁簿」(大正9~13年度)の史的価値について」平成30年3月/日本アートマネジメント学会学会誌「アートマネジメント研究」第17.18合併号(P.24~P.35)
11. <事例報告>「日本期の南サハリンの公会堂に関する調査」令和2年3月「静岡大学 地域創造教育研究」創刊号 (P.1~P.10)
12. 科学研究費助成事業 若手研究(B) 代表「植民地期朝鮮の公会堂における近代的催事の市民の享受の実態について」(平成27年4月~令和4年3月/課題番号: 17K13368) ほか

■ アピールポイント

- 1: 学外組織と連携した文化施設、文化財調査
2018年度: 静岡大学地域連携応援プロジェクト『旧マッケンジー住宅の顕彰事業』
静岡市文化振興財団との連携。
2020年度: 静岡大学地域連携応援プロジェクト『PAINing展』(若手現代美術作家の支援)
静岡県立美術館との連携。
- 2: 学外組織と連携したアーツマネジメント
ピアノ四重奏団アンサンブル・ラロのコンサートツアー(依頼公演: 西条、大垣、大船渡、大津、札幌、静岡、東京等)のオーガナイズ、国内外の演奏家のマネジメント。



経営（事業創造）

佐藤 善信	………	34頁
福嶋 幸太郎	………	35頁
山中 俊之	………	36頁
瓶内 栄作	………	37頁
中村 嘉雄	………	38頁
辻村 謙一	………	39頁

04

語学

傅 建良	………	40頁
姚 瑶	………	41頁

情報

藤本 悠	………	42頁
------	-----	-----

SATO YOSHINOBU

教授 佐藤 善信



■ キーワード マーケティング戦略、経営戦略、アントレプレナーシップ

市場開発・開拓戦略、起業戦略、地域創生戦略、マネジメント・コンサルテーション、経営者育成・経営幹部・後継者教育

■ 研究の概要

○「市場創造・開拓戦略」

新規事業開発、製品開発、ブランド戦略、販路開拓、マーケティング・コミュニケーションなど

○「起業戦略」

ビジネスモデルの立案、ビジネスプランの作成、実施計画など

○「地域創生戦略」 プレイス・ブランディング、マネジメント・コンサルテーション

経営理念・経営ビジョン策定、経営計画の策定、従業員エンゲイジメントの増進策、インターナル（インター）・ブランディング戦略など

○「経営者育・経営幹部・後継者教育」

思考方法（ラテラル、クリティカル、ロジカル・シンキング）、事業承継プラン、ドラッカー理論の解説など

04

■ 研究事例

研修用のケース開発：これまでにケース・メソッド用ケースを200本以上開発している。ケースはビジネススクールの私の授業や各種の社会人研修で使用している。それらのケース・ディスカッションやケース分析から実践的な経営戦略やマーケティング戦略のインプリケーションを導き出している。また、理論的なインプリケーションは学会で報告したり、論文として、また著書の中でまとめている。

経営アドバイザー（東邦レオ株式会社にて月に2回開催）：「未来戦略会議」（5年から10年先の同社の核となる新規事業の育成戦略を検討する会議、構成メンバーは会長、社長、アドバイザー2名、秘書1名で構成）、「投資委員会」（新規事業案件に投資すべきかどうかの判断を、推進責任者の発表を聞き、その後の質疑応答によって決定する。構成メンバーは、会長、社長、専務、他グループリーダ、佐藤、事務局：経営企画担当者2名）。

「コロナ禍における企業の組織レジリエンス」：令和3年度より3年間、この関連テーマで文部科学省の科学研究費助成金を獲得。ビジネスモデル的にはプリコラージュとエフェクチュエーションが重要になる。企業を取り巻く環境の変化が急速で、かつ掴まえ所のない状態では、環境変化に応じて組織を進化させ続けることが必要である。そのためには、ダイナミック・ケイパビリティが重要になる。顧問先の企業では、そのようなダイナミック・ケイパビリティを発現させる戦略的仕組みのマイクロ基礎を研究している。

■ アピールポイント

1. 2000年～2021年：（財）神戸ファッション協会の依頼により、地元経営者に対してMBA的教育を提供するという理念のもと、毎回、私の書下ろしの「ケース」を用いてケースメソッド研修会を年に10回開催。
2. 中小企業大学校（関西校と広島校）で、経営管理者養成プログラムのゼミ講師を数年間継続して務めた。
3. 豊岡のエコニア・グループとカバンストリートのボランティア・アドバイザーを務めた。
4. 中堅企業の経営アドバイザー契約を数社と行っている。
5. 豊岡市商工会からの関西学院大学への委託研究：「神鍋高原地域マネジメントプラットフォーム構築に関する研究」（研究期間：2021年4月1日～2022年1月31日）の研究代表者に就任

YAMANAKA TOSHIYUKI
 教授 山中 俊之 toshi.yamanaka@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 国際教養、リーダーシップ

グローバル情勢理解、グローバルビジネス支援、地域創生支援、行政支援

■ 研究の概要

1. グローバル情勢理解

- ・現在の国際情勢についてSDG s や移民問題、テクノロジーなどの論点と連動させて、講演・ワークショップを行うこと。
- ・世界の歴史、宗教、芸術文化、哲学について講演・ワークショップをすること。
- ・英語等外国語習得の意義について講演・ワークショップをすること。

2. グローバルビジネス支援、グローバルリーダーシップ支援

- ・経営者、リーダー向けに、現在の国際情勢とビジネスの関係について講演・ワークショップをすること。
- ・世界や日本のあるべき方向について、事業者などが参加する会合でファシリテーションをすること。
- ・海外進出を目指す企業において、海外出張や赴任者を研修やコーチングを通じて育成すること。

3. 地域創生支援

- ・地域創生について、住民、行政、事業者などが参加する会合でファシリテーションをすること。
- ・観光振興について、世界各地の文化や歴史文化を基にアイデアを出すファシリテーションをすること。
- ・外国人の居住者や観光客への生活支援。

4. 行政支援

- ・行政機関の人材開発のあり方についてアドバイス。

04

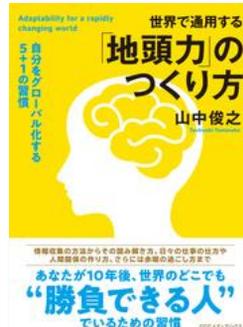
■ 研究事例



2020.3 朝日新聞出版



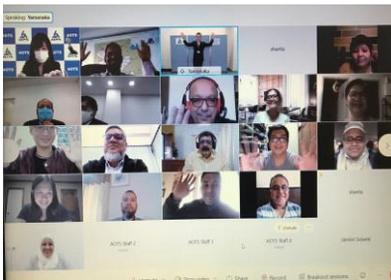
2019.8 ダイヤモンド出版



2018.2 CCCメディアハウス出版



2014.7 祥伝社出版



研修・ワークショップ事例
 全世界のビジネスリーダーをオンラインでつなぎ、ポストコロナ時代のSDG s の観点からの事業立案についてファシリテーション (一般財団法人海外産業人材育成協会での研修例)

■ アピールポイント

- ・関連講演や研修を過去18年間にわたり経験。ビジネスパーソンを含め累計4万人以上に研修実施。
- ・世界96か国を訪問して、現地的情勢を徹底的に視察。イナモリフェローに選抜され、米国シンクタンクCSISにて、グローバルリーダーシップについて研鑽を積む。
- ・英語での講演、ワークショップ可能。
- ・歴史文化、宗教、世界情勢の理解、公務員人事等に関する書籍の出版。
- ・全国の自治体職員3,000人以上にインタビュー。医療福祉、教育現場など自治体の現場を多数訪問。大阪市特別顧問をはじめ多くの行政機関で専門家委員を務める。

KAMEUCHI EISAKU

講師 **瓶内 栄作** e-kameuchi@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 中小企業、事業承継、第二創業

中小企業の経営診断 第二創業ならびに事業再構築、事業承継における助言

■ 研究の概要

・事業承継

公的支援機関でのアドバイザー経験を生かした個社に対する助言
親族承継時における、後継者のキャリアを活用した第二創業の実現
環境変化に対応した、複数選択肢の事業承継計画の策定

・中小企業経営、中小企業支援

経営革新等支援機関の経験を生かした、事業計画の策定
中小企業政策の変遷と、政策が対象とする企業類型に対する研究

・新規事業創出

既存経営資源を活用した第二創業の実現、事業再構築の方策検討

・地域景況調査

RESAS等を活用した地域特性の分析ならびに、個社調査実施時の調査票作成と集計並びに分析

■ 研究事例

事例1. 経営診断・評価の実施
近畿経済産業局サービス産業室
「土業専門家と連携した旅館業の現場改善・IT導入
提案実証事業」(共著)

専門家による課題分析・提案検討

▶ 分析・検討を行った分野

DaVinciメンバーが、以下の項目について、それぞれの得意分野を担当し、課題を詳細に分析するとともに、課題解決のための提案を行った。

① 経営戦略 ② 組織人事 ③ 財務会計 ④ マーケティング・営業
⑤ 業務改善、IT活用 ⑥ IT運用・管理

▶ 分析・検討を進めるなかで明らかになった課題

生産性向上のためのIT導入、現場の業務改善の取組を検討・提案する中で、IT導入を行う前に対処しなければならない課題が明らかになった。

- 旅館としてのサービスコンセプトの再定義
- 組織間の連携、協力体制の強化
- 次世代のリーダー人材の育成

事例2. 企業向け 経営革新セミナーの実施
協同組合尼崎工業会 NL研究会
「これから世代のための経営革新のすすめ」



事例3. 事業承継時における第二創業についての研究
「小規模企業での両利きの経営実現における組織形成に
ついての一考察—事業承継期の企業に関する実証研究から—」

両利き要素との適合

	戦略的意図	経営陣の両者互保確保	深化・継承の隔離	深化・継承の統合
① 内職工事業の開始	戦略的な重要要素 本業の資産の活用低	なし(親社長はこの段階で経営者ではない、かつ前社長の関与なし)	業務の完全な分組、分離しすぎている。	なし
② CAD/CAMへの移行	戦略的な重要要素 本業の資産の活用高	あり(前社長が移行、現社長がマネージャー)	業務の完全な分組あり(両者の混同)	あり
③ インドネシア法人設立	戦略的な重要要素 本業の資産の活用低	あり(親社長が監理保護、社長と支那雄大氏がマネージャー)	監理は独立している。	あり(既成文書)

事例4. 地域景況調査の実施
「小野商工会議所 平成29年度地域経済動向調査報告書」



■ アピールポイント

兵庫県中小企業診断士協会理事, 兵庫県中小企業団体中央会シニア・コーディネーター
(元) 神戸市産業振興財団 事業承継アドバイザー, 日本中小企業学会本部事務局

NAKAMURA YOSHIO

助教 中村 嘉雄 y-nakamura@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 中小企業論、地域産業論、観光学

中小企業振興策としての新製品開発や新サービスの創出、事業承継・第二創業の推進、商工会・商工会議所等と連携した創業・起業の推進

■ 研究の概要

兵庫県内において、商工会等を通じて大学と企業または地域と連携した産学連携事業の推進。

- (1) 大学との連携により、企業のビジネスプランづくりを支援する。新技術・新製品開発に至る場合については、理工学部や芸術系大学等とも連携することにより、市場浸透を可能とする製品化を行う。その他、観光振興や地域活性化策の提案を学生目線と専門の教員による知見を加えた提案を行う。
- (2) 事業提案型インターンシップを行うことにより、企業や行政への就職に繋がるケースや後継者不在の企業への第二創業のマッチングを支援する。
- (3) 地域経済活性化のため、地域資源活用による特産品開発を支援する。また、観光振興策として、兵庫県内の観光コンテンツ開発を行う。

■ 研究事例

<事例1> 産学連携による調査、地域資源活用、観光振興、地域活性化策の提案等



<事例2> 起業、事業承継の相談、インターンシップ・第二創業のマッチング支援、中小企業支援に係る各種セミナー等の立案及び開催



<事例3> 地域資源活用、特産品開発及び販路開拓支援、観光・地域活性化策の提案、観光コンテンツの開発等

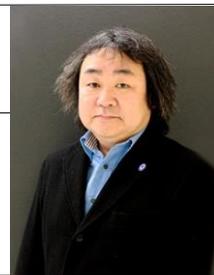


■ アピールポイント

地域の核となる中小企業が持続的に発展することは、雇用の確保・維持にも繋がり、少子・高齢化で過疎化が進む地域経済の活性化に寄与することが期待される。

また、新型コロナウイルスの影響により、テレワークや遠隔会議が進む中、東京等都市部で企業経営する必要が薄れ、38地方で創業（起業）するマインドが高まることにより、地方創生に繋がるものと期待される。

TSUJIMURA KENICHI
 助手 **辻村 謙一** tsujimura@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード マーケティング（地域貢献・地域資源活用・非営利活動等）

人的ネットワークによる地域資源や人的資源の発掘、ソフト・コンテンツの活用および導入 等

■ 研究の概要

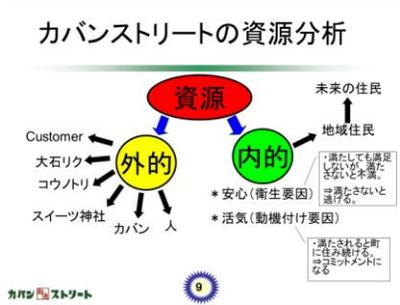
【研究フィールド】

2002年3月に行った、阪神・淡路マルチメディア産業交流会による豊岡市の視察訪問を契機として、豊岡市の方々との交流が始まった。2008年にはCIBER (Center for International Business Education and Research) が展開している共同課外授業“Global Business Project (GBP)”の日本での第一回目として、豊岡市宵田商店街（カバンストリート）をフィールドとして行う研究活動に関与した。特に豊岡市が日本に、そして世界に誇る鞆関連の活動関連に興味を持ち、定期的に訪問を繰り返し現在に至っている。既に人的ネットワークを構築出来ている。

- ①その人的ネットワークを礎に、更に人的交流を広げて地域資源や人的資源の発掘を積極的に行い、今後の地域活性化につなげるべく有機的なつながりを構築する。
- ②神戸市等に於いて、地域資源や人的資源を活用して、様々な分野で行って来たイベント関連等のノウハウを生かして、当該地域に於いても実行する。
- ③地域を跨いで行う活動に興味を持っている。ハードの企画や開発の経験は少ないが、ソフト関連に関して地域の方々にとっても必要とされる活動を作り上げ、今迄以上に兵庫県内外での人的交流も盛んに行っていきたい。

■ 研究事例

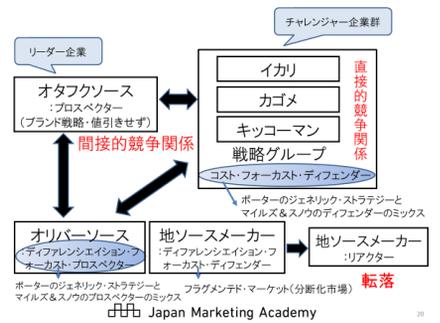
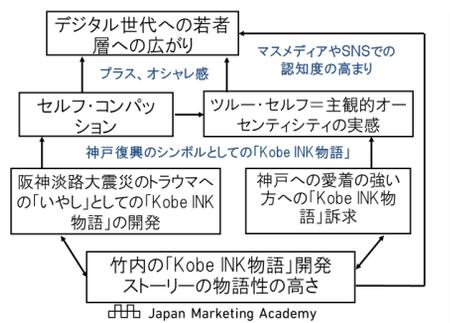
事例1 “カバンストリート活性化の研究”



事例2 『伝統的地場産業の、戦略なきある靴下会社の悲しきジレンマと、その会社への提言』



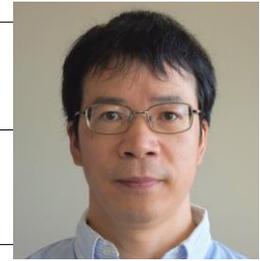
事例3 神戸INK物語の研究・神戸ソースの研究



■ アピールポイント

- 39 ■ 宵田商店街ーカバンストリートとしての復活ー 2011/9 共同執筆（関西学院大学大学院佐藤善信教授）
 ■ カバスト春祭り（豊岡カバンストリート&但馬future forum実行委員会主催） 審査委員 2010/3/21 等

講師 傅 建良 fu_kenryo@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 英語学 対照言語学
意味論 現在完了形 文法化

■ 研究の概要

I have finished my work.は古英語ではI have my work finished.のような語順だった。そして、Einstein has visited Princeton.という例文はEinsteinが生きている間だけ適格であるとの見解がある。

このような謎に包まれる英語の現在完了形は一般的に「現在と関連する過去」であり(Leech, 2004等)、二つの時間的關係を表す複合時制である (Huddleston et al, 2002等) とされている。その複雑さについて比較言語学や対照言語学の視点から行われてきた先行研究は多数あるが、十分とは言えず、英語の現在完了の特質、例えば、定時過去副詞との共起やニュースにおける現在完了形の用法等については、通時的尚且つ系統的に説明がなされていない。

本研究は、二言語の限界を超え、三言語における現在完了形あるいはそれに相当する時制の普遍性を見出そうとしている。英語・日本語・中国語の三言語において「存在」を表す本動詞から完了アスペクト辞への文法化現象がみられる。また、傅(2010)は通時的な観点から英語の現在完了形の変遷について、Elsness(1997)の三段階説を修正し、四段階説を提案している。Stage 1はOld Englishから14世紀ごろまで、「現在」に意味の焦点を、Stage 2は14世紀から18世紀にかけて、「過去」に意味の焦点を、そして、Stage 3は18世紀から現在に至り、「現在」に意味の焦点を当てる。最後に、Stage 4は現在完了形の今後の変化動向で、再び「過去」に意味の焦点を当てる段階に入りつつあると仮説を立てた。根拠として、現在完了形と定時過去副詞との共起(傅2009)、現在完了形のcurrent relevanceの拡大解釈(傅2010)、英語の現在完了形の助動詞(have, has)の脱落現象(傅2011)、news perfect用法(2019)を取り上げて検証を行った。

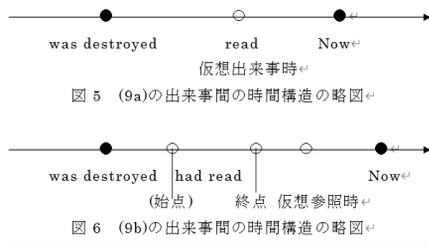
本研究は英中日三言語間における現在完了形を比較・対照して、言語を超えるテンス・アスペクトシステムを明らかにする研究である。

04

■ 研究事例

事例1 : 2020年論文 Before節における過去完了形と過去形 – 出来事の時間的構造の視点から

事例2 : 2020年論文 Dust: A Case Study on Cononymy



- (12) The primary senses of the verb *mist*¹²
 - a. Become Type: "To be or become misty" "appear in the form of a mist"
 - b. Cover Type: "To cover or obscure with or as with mist"

(OED, CD-ROM, Second Edition, 1989)
- (13) The primary senses of the verb *vapor*¹³
 - a. Move Type: "To rise or ascend, to be emitted or diffused, in the form of vapour"
 - b. Remove Type: "To pass away, to be dissipated, in the form of vapour"
 - c. Become Type: "To convert into vapour"
 - d. Cover Type: "To make dim or obscure with vapour."

(OED, CD-ROM, Second Edition, 1989)
- (14) The primary senses of the verb *dust*¹⁴
 - a. Move Type: "to rise as dust"
 - b. Remove Type: "To free from dust; to wipe or brush off the dust from."
 - c. Become Type: "To reduce to dust, or to small particles like dust"
 - d. Cover Type: "To sprinkle with dust or powder."

(OED, CD-ROM, Second Edition, 1989)

株式会社 開拓者 2020.9 発行

事例3 : 2019年論文 The "News Perfect" from an Evolutionary Perspective

- (4) Four stages of semantic focus shift in the English present perfect (Fu, 2010)
 - Stage 1: Present > Past +
 - Stage 2: Present < Past
 - Stage 3: Present > Past ← **the present perfect in present-day English**
 - Stage 4: Present < Past

To begin with, Stage 1 in the above (4) is characterized by "present outweighing past" semantically, meaning that the semantic weight on the present overpasses that on the past. Stage 1 covers a historical period till the 14th century,



■ アピールポイント

日本英語コミュニケーション学会理事、HYOGOロータリークラブ会員
協同国際特許業務法人非常勤翻訳チェッカー

YAO YAO

講師

姚 瑶

yao_yao@stdat.at-hyogo.ac.jp



- キーワード 日本語教育 中国語教育 第二言語習得 多文化共生
演劇手法を用いた日本語・中国語教育 外国につながる子どもの学習支援
(日本語、中国語)

■ 研究の概要

- (1)演劇的手法を用いたコミュニケーション教育・語学教育:
語学教育現場で演劇的手法を用いたコミュニケーション教育を実施し、有効性を検証。
- (2)地域日本語教育・多文化共生課題抽出:
1.多様な外国人住民が正しく理解されていない為、孤立感が強い。
2.生活者としての外国人に対する日本語教育支援が不十分。
3.多様な文化的背景・語学能力をもつグローバル人材の活躍の場が少ない。
4.外国につながる子どもに対する学習支援が不十分。
- (3)外国につながる子どもの学習支援(日本語、中国語)の啓発:
地方自治体や国際交流協会、ボランティア団体等により日本語教室やリソースセンター開設など、学習機会は増加するがまだ不十分。日本語学習支援者の日本語教授法等の基礎的な知識・技能学習機会も不足。「生活者としての外国人」の日本語教育支援および、地域日本語学習支援者の養成を行う。

04

■ 研究事例



事例1 演劇コミュニケーションワークショップ (福岡県田主丸中学校)



事例2 演劇作り (福岡県二日市中学校)



事例3 日中交流制作活動:
動画制作体験&オンライン発表
「キミも敏腕ディレクター」
(文部科学省子ども夢基金助成活動:
株式会社コミュニコ&中国廈門
耳海里言語演劇パフォーマンス
アートセンターコラボプロジェクト)

■ アピールポイント

ふくおか教育を考える会会員、子どものための表現教育広め隊隊員、日本語教育学会会員、国際表現言語学会会員、ワークショップファシリテーター、劇団14+劇団員、(有)パブリックチャンネル所属俳優

准教授 FUJIMOTO YU
藤本 悠 yu_fujimoto@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 地理情報科学／文化情報学

GIS/データサイエンスによる地域課題の「見える化」、オープンデータやデジタルアーカイブ技術による地域資源の利活用

■ 研究の概要

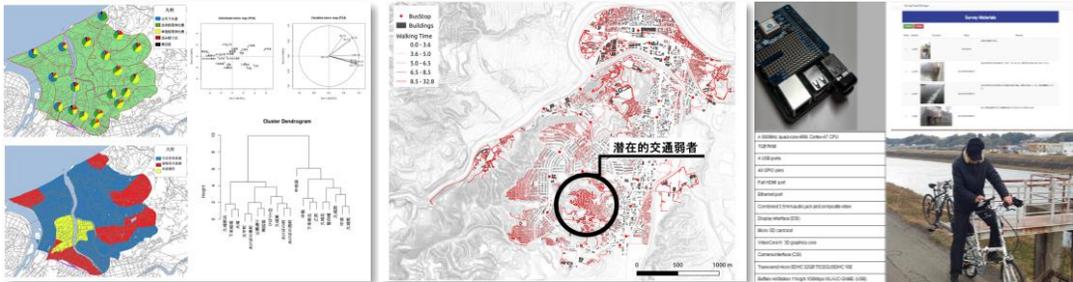
<ICT関連>

- ・データベースの設計と実装
- ・地理情報システム（GIS）データの構築と運用
- ・空間データやテキストデータの分析と可視化
- ・電子自治体、オープンデータ、地理情報システム（GIS）、データマイニング
- ・文化資源のデジタルアーカイブ
- ・ICTによる働き方改革

<地域創成関連>

- ・過疎化および少子化が進む地域での実態調査と地域支援
- ・ジオパークを活かしたまちづくり
- ・地域文化資源の保存と運用

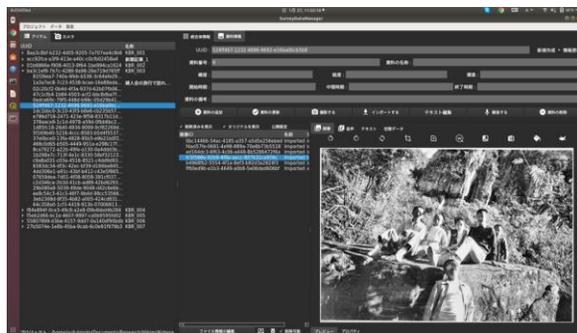
■ 研究事例



事例1：下水処理に関する分析

事例2：交通弱者に関する分析

事例3：災害時の調査システム開発



事例4：地域資源のデジタルアーカイブ構築



事例5：地域住民への聞き取り調査

■ アピールポイント

近年では地域創生に関わる研究やジオパークに関する研究なども行っている。また、情報通信技術（ICT）を活用した行政における意思決定支援や地域創生、行政における働き方改革にも興味関心が高い。国内外において非常に幅広い分野に関わってきたため、コストや人的資源の限界、ICTの整備状況も踏まえた上で各種アドバイスを行うことができる。

◆ お問い合わせ 産学連携申し込み

芸術文化観光専門職大学

- ・地域リサーチ&イノベーションセンター（RIC）
- ・地域協働課
- ・地域支援課

住所

〒668-0044 兵庫県豊岡市山王町7-52

電話

(0796) 34-8123（代表）、34-8162（RICダイレクトイン）

ウェブサイト

<https://www.at-hyogo.jp/>

E mail

cat-hyogo@ofc.u-hyogo.ac.jp

発行責任者 川目 俊哉

担当 久保雅義 小田知子

発行日 2021年6月1日



芸術文化観光専門職大学
地域リサーチ&イノベーションセンター